



# 福井県英語研究会事務局

事務局長 水木 毅 (武生東高校)

## 1. 第1回役員会

令和5年5月2日(火)、福井県国際交流会館で令和4年度会計監査および令和5年度第1回役員会を開催し、総会に提案すべき議事を審議しました。

## 2. 総会・講演会

令和5年6月13日(火)、ユーアイふくい多目的ホールで福井県英語研究会総会および講演会を開催しました。総会では全ての議案が承認を得ました。

講演会の概要は以下の通りです。

講師：津久井 貴之 氏 (群馬大学共同教育学部講師)

演題：「新学習指導要領と日々の授業の接点～今日できる授業改善のヒントと工夫～」

参加人数：50名

## 3. 会員名簿発行

令和5年7月、令和5年度会員名簿を発行しました。平成22年度から会員名簿作成業務を広報部にお願ひしており、平成28年度より小学校の英語活動担当者も掲載しています。年度当初の大変忙しい時期に御尽力頂いた広報部には深く感謝申し上げます。

## 4. 福井県英語教育研究大会

令和5年11月9日(木)武生東高校にて開催されました。以下がその概要です。

研究主題：英語によるコミュニケーション能力及び論理的思考力を強化する指導改善の取組  
～対話を通してより学びを深める手立て～

内容：公開授業、全体会(研究過程報告、授業研究協議、助言等)

授業者：水木毅 吉村満美 佐々木秀和

助言者：伊達正起 氏 (福井大学教育学部教授)

参加人数：49名

## 5. 全英連東海北陸地区英語教育協議会

令和5年12月5日(火)に静岡県にて開催され、福井・石川・富山・愛知・岐阜・静岡・三重の7県から各代表が参加しました。本県からは、竹本俊穂会長が出席されました。今年度静岡県で行われた東海北陸ブロック英語弁論大会の振り返り等を行いました。

## 6. 第41回岩崎賞選考委員会

令和6年1月30日(火)に国際交流会館にて行いました。

## 7. 第2回役員会

令和6年1月30日(火)、国際交流会館にて第2回役員会を開催し、令和5年度事業・決算中間報告、令和6年度事業計画等について審議しました。

# 県中教研英語部会

事務局長 林 早希 (三国中学校)

今年度も「英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導の改善と充実」を研究主題に掲げ、各ブロックや各郡市、各学校で研究実践に取り組んだ。郡市部長会や県中教研究集会は全てオンラインでの開催であったが、活発に意見交換を行うことができ、貴重な時間となった。

本年度の県中教研英語部会の活動の概要は以下のとおりです。

## 1 6月8日(木) 第1回県中教研英語部会郡支部長会(オンライン開催)

- ・令和4年度事業報告ならびに令和5年度事業計画について
- ・令和5年度福井県中学校教育研究集会について
- ・令和5年度東海北陸公立学校英語教育研究会富山大会について
- ・中学校英語セミナー、英語検定について、各ブロック間の情報交換

## 2 8月9日(水) 令和5年度福井県中学校教育研究集会(オンライン開催)

- ・発表者 教諭 伊藤江莉奈 (福井市足羽中学校)  
教諭 石田亮太 (勝山市立勝山北部中学校)

## 3 8月8日(火)、9日(水) 令和5年度東海北陸公立学校英語教育研究会富山大会参加

- |    |                        |    |                   |
|----|------------------------|----|-------------------|
| 校長 | 西 健 (坂井市立三国中学校)        | 校長 | 鈴木三千弥 (福井市社中学校)   |
| 校長 | 広瀬泰司 (大野市立開成中学校)       | 教頭 | 浜上千恵 (敦賀市立角鹿中学校)  |
| 教頭 | 網田友紀 (越前市立武生第二中学校坂口分校) |    |                   |
| 教諭 | 高山大輔 (福井市明倫中学校)        | 教諭 | 渡邊衣咲子 (敦賀市立松陵中学校) |

## 4 11月14日(火) 第2回県中教研英語部会郡支部長会(オンライン開催)

- ・令和5年度東海北陸公立学校英語教育研究会富山大会についての報告
- ・令和5年度福井県英語教育研究大会についての報告
- ・令和6年度県英語教育研究大会福井大会発表について
- ・各ブロック間の情報交換

## 5 2月2日(金) 第3回県中教研英語部会郡支部長会(オンライン開催)

- ・令和5年度事業報告
- ・令和6年度事業計画について
- ・令和6年度研究主題について
- ・各ブロック間の情報交換

## 6 その他

- ・英語セミナーの実施 8月 7日(月) 福井ブロック  
8月 8日(火) 若狭ブロック  
8月中 鯖丹・南越ブロック  
12月27日(水) 坂井ブロック

## 令和5年度中教研部会郡市部長名及び活動報告

部	部長名	活 動 内 容
福 井 市 部	鈴木三千弥 (社 中)	<p>中教研福井ブロック英語部会の活動は、4月の主任会を4年ぶりの参集型で行うことができました。また、令和6年度の福井県英語教育研究大会（福井大会）に向け、研究推進委員会を中心に準備を進めています。</p> <p>【令和5年度活動報告】</p> <p>4月13日 第1回中教研福井ブロック英語部会主任会（社中学校） 令和6年度の福井県英語教育研究大会（福井大会）へ向けた第1回研究推進委員会（以下、県英研研究推進委員会）</p> <p>5月30日 第2回県英研研究推進委員会（社中学校）</p> <p>6月28日 福井ブロック中学校教育研究集会（社中学校）</p> <p>6月30日 県英研研究推進委員会&lt;非公式のため派遣文書なし&gt; (オンライン)</p> <p>7月25日 第3回県英研研究推進委員会（光陽中学校）</p> <p>8月 4日 第1回福井ブロック内授業研究会推進委員会（光陽中）</p> <p>8月 7日 2023 福井市サマーセミナー（今年度名称変更）（アオッサ）</p> <p>8月8, 9日 第47回東海北陸公立中学校英語教育研究会（富山大会）に参加</p> <p>8月 9日 福井県中学校教育研究集会（三国中よりオンラインで実施）</p> <p>8月22日 第2回福井ブロック内授業研究会推進委員会（光陽中）</p> <p>10月17日 第3回福井ブロック内授業研究会推進委員会（光陽中）および第4回県英研研究推進委員会（光陽中）</p> <p>10月20日 令和5年度福井県小学校教育課程研究集会 「直山木綿子氏講演会」（オンラインで自主参加）</p> <p>11月16日 岐阜県小中学校英語研究部東濃大会研究推進委員3名視察 (多治見市立小泉中学校)</p> <p>12月 5日 第5回県英研研究推進委員会および授業公開（光陽中学校）</p> <p>12月 7日 第1回福井ブロック内授業研究会（棗中学校）</p> <p>1月29日 第6回県英研研究推進委員会および授業公開（光陽中学校）</p> <p>2月 9日 第2回福井ブロック内授業研究会（藤島中学校）</p> <p>3月 1日 第2回中教研福井ブロック英語部会主任会</p>

部	部長名	活 動 内 容
吉 田 郡 部	山内 清美 (永平寺中)	<p>吉田郡では、例年のように、以下の指導主事訪問日の公開授業をお互いに見合せて、授業づくりのアイデアを交換し合った。授業後には気づいたことを共有して、授業者も参観者も更に良い授業ができることを目指した。英語科教員が1～2人という小規模校2校にとっては、授業のアイデアを共有できる良い機会になっている。ここ3年ほどで、どの生徒もタブレット端末を使うことに関わり慣れてきた。ICTを使うことの利点を、英語科の授業でもできるだけ組み入れるようにし、ICTの使い方の工夫についても情報交換をしている。</p> <p>10/31 松岡中学校 3年 Unit 5 (習熟度別クラスでの授業)</p> <p>11/14 永平寺中学校 2年 Let's Talk 3</p> <p>また、今年度は夏休みに小学校の先生方ともじっくり話し合う機会を持つことができた。中学校区ごとに集まり、小学校で目指していることや取り組みについて、小学校から中学校への移行期にどんなつまづきを持つ生徒たちが多くかについて等、情報交換をした。小学校と中学校で Classroom English をある程度揃えて指導する。中学校入学直後に、自己紹介や出身小学校紹介のスピーチをする授業を必ず行うこととし、小学生の段階から中学校で英語を学ぶ意識付けをしておくことについて確認した。</p>
坂井 ブロック (あわら市・坂井市)	加藤 修 (春江中)	<p>今年度、本ブロックでは来年度の県中教研発表への研究も含めた継続的な研究を前提に、次の三つの柱を中心に据えて活動を行ってきた。</p> <div data-bbox="392 977 1053 1112" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①意見考えを求めるためのワークシートの作成と共有</p> <p>②授業で行う言語活動の、指導と評価</p> <p>③英語教員の働き方改革</p> </div> <p>①については、地区内や学校内である程度統一したものを作成・使用し、使用後に議論をしながらマイナーチェンジを重ね、来年度以降につなげていく。</p> <p>②では、日々の実践を共有し、まず日常の授業での言語活動をレベルアップする。また、定期テスト、単元テスト(筆記)、パフォーマンステスト(リスニング、やり取り、発表、ライティング)のあり方について議論し、日ごろの指導を生かしながら、より効果的に評価するためのものを作成・共有していく。</p> <p>③に関しては、これまで行われてきた業務の精選を図り、指導および評価が生徒にとっても教員にとってもより良いものとなるように、議論を重ねていく。</p> <p>このような活動を持続させていくために、オンライン会議(英語科主任会)を月一度開催してきている。その内容は、以下のとおりである。</p> <div data-bbox="392 1572 1204 1707" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○授業でのワークシートや発問、定期テスト問題、パフォーマンステストの内容、家庭学習の方法などの共有</p> <p>○英語セミナーの打合せ</p> </div>



部	部長名	活 動 内 容
坂井ブロック	加藤 修 (春江中)	<p>なお、英語セミナーについては、新型コロナ以前は夏季休業中に行っていたが、今年度は冬季休業中に行うこととした。地区内中学校から計31名の生徒が参加し、16名のALTの協力を得ることができた。地区内生徒への還元の程度や教員の働き方改革などの視点を鑑み、来年度以降の英語セミナーは実施しない予定である。</p> <p>今後も、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度、その資質・能力を育成するための指導と評価の改善に努めるべく、先述の三本柱を中心に据えて研究と修養を続けていく。</p>
大野市部	広瀬 泰司 (開成中)	<p>研究主題 英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導の改善と充実</p> <p>4/13 第1回大野市学校教育研究会 (学びの里「めいりん」) 分科会結成、研究主題および研究計画、当面する課題についての意見交換</p> <p>5/9 第2回大野市学校教育研究会 分科会長会、分科会予算配分等 (結とびあ)</p> <p>6/2 中学校教育課程奥越ブロック集会 (勝山市内中学校) 令和5年度夏季英語セミナーについての研究協議</p> <p>6月 夏季英語セミナー運営研究会 (中止)</p> <p>7月 奥越中学校夏季英語セミナー (中止)</p> <p>8/1 第4回大野市学校教育研究会 (開成中学校) 小中学校合同研修</p> <p>8/9 県中学校教育課程福井県研究集会 (リモート開催)</p> <p>9/20 2学期授業研究会 (陽明中学校)</p> <p>11/8 大野市学校教育研究会英語部会研究会 (開成中学校) 県学力診断テストの結果に基づいた市内中学生の到達度の分析</p> <p>1/23 3学期授業研究会① (開成中学校)</p> <p>2/15 3学期授業研究会② (開成中学校)</p> <p>通年 大野高校互見授業 (大野高校) 大野高校教員による英語授業の参観と指導方法の協議</p>

部	部長名	活 動 内 容
勝 山 市 部	前田 宏治 (勝山南部中)	<p>昨年度から引き続き県中教研の発表に向けて、研究主題を『単元を貫く問いを柱にした指導の改善と工夫』と設定した。重点研究事項として①教科書のUnit毎に設定されているPoint of viewの効果的な指導。②書くこと・話すことについて、自分の言いたいことを適切に正確にoutputするための指導。③教科書を有効に活用するための、効果的な発問の工夫。の3点を中心に実践を進めた。</p> <p>(1) 勝山市学校教育研究会英語部会年間活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4月21日(金) 勝山市教育研究会英語部会 於：成器西小学校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題の検討</li> <li>・部会の活動計画と役割分担</li> </ul> </li> <li>○ 5月12日(金) 勝山市教育研究会英語部会 於：勝山南部中学校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥越中教研指導案検討</li> </ul> </li> <li>○ 6月 2日(金) 奥越中教研 於：勝山南部中学校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業と授業研究会</li> <li>・指導と評価についての意見交換</li> <li>・セミナー実施の有無について検討</li> </ul> <p style="margin-left: 2em;">→今後は当面実施しない。</p> </li> <li>○ 6月 8日(木) 勝山市教育研究会英語部会 於：勝山南部中学校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・県中教研発表原稿検討</li> <li>・県中教研発表資料作り</li> </ul> </li> <li>○ 8月 1日(火) 勝山市教育研究会英語部会 於：勝山南部中学校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・県中教研発表リハーサル</li> <li>・第2学期中間考査問題検討</li> </ul> </li> <li>○ 10月19日(木) 20日(金) 於：各学校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・勝山市第2学期中間考査共通問題実施</li> </ul> </li> <li>○ 12月26日(火) 授業づくり研修会 於：教育会館 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市教委主催の研修会</li> <li>・小中連携について意見交換</li> </ul> <p style="margin-left: 2em;">1月下旬 授業研究に関わる意見交換会</p> <p style="margin-left: 2em;">2月 授業研究会と今年度の振り返り</p> </li> </ul> <p>(2) 今後の取り組み</p> <p>令和5年度県中学校教育研究大会での発表に向けて、その準備や実践を重ねた。小中高を通して指導の連続性・一貫性を高めるため、小中連携、中高連携にも取り組み始めた。</p>

部	部長名	活 動 内 容
鯖 江 市 部	酒井 一史 (鯖江中)	<p>研究テーマ「英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」のもと研究実践に取り組んだ。実践にあたっては、5領域を効果的に関連付けた統合的な言語活動を通じたコミュニケーションの資質・能力のバランスのとれた育成をすること、また、互いの考えや気持ちを英語で伝え合うことを重視した指導法について、研究を推進した。小学校で英語に慣れ親しんでいる生徒が増えてきたことを受け、学校種間の学びの接続がより円滑なものとなるよう、小中連携に重点を置き、小中それぞれの研究会に小中教員が参加し、児童生徒の英語力の状況把握や授業改善の情報交換、それぞれの段階で身につけたい英語力や指導法について協議した。</p> <p>(1) 研究実践・小中連携</p> <p>第1回 鯖江市英語授業研究会 11月7日(月) 北中山小学校 酒井 啓宣 教諭、Lera Musienko (ALT) 5年 Unit 6 What would you like?</p> <p>第2回 鯖江市英語授業研究会 1月30日(火) 鯖江中学校 菊池 里枝 教諭、Hagley John、Perez Arianna (ALT) 3年 Let's Have a Mini Debate</p> <p>小中合同の研究授業参観、研究会を実施。小中における研究授業の案内を市内全ての小中学校に送付し、小中の教員が合同で英語指導に関する研究協議を行った。</p> <p>(2) 丹南ブロック英語セミナー (各中学校で実施)</p> <p>事務局より提供されるプログラムを用い、7月や夏季休業中に各校で開催した。自校開催のため、参加する生徒も多く、和やかな雰囲気でも英語に親しむことができ、ALTと英語でやり取りする機会も多かった。ALTのオリジナル企画もあり、ALTも主体的に取り組んでいた。</p> <p>鯖江市で試験導入している学習アプリ「Qubena」を朝の学習活動や家庭学習に活用している。授業においては、タブレットの機能を活用した授業実践を進めている。教員はICTを活用した授業展開、生徒は意見発表のための補助資料作成など、英語使用における補助ツールとしてタブレットを活用する力が身につけてきている。今後も扱う資料や場面設定、目的等を大事に扱い、様々な視点から生徒に問いかけるようなやりとりを中心とした授業を推進することで、即興でも英語でやりとりしようとする態度の育成を進めていきたい。</p>

部	部長名	活 動 内 容
丹 生 郡 部	林 淳子 (朝日中)	<p>丹生郡英語部会は、郡（越前町）内4校の英語教員で構成されている。本年度は、「英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導の改善と充実」を研究テーマに、各校で工夫して授業づくりに取り組み、6月、10月～11月の期間中、郡内小・中学校の英語活動・英語授業をお互いに見合うことにより授業力の向上を図ってきた。また、通年、中高一貫教育を進める丹生高校とも連携している。</p> <p><b>【おもな活動】</b></p> <p>4月17日（月） 第1回丹生郡英語部会 ・英語部会の年間計画について ・英語セミナーについて</p> <p>7月～10月 英語セミナー（各中学校での開催）</p> <p>(授業参観)</p> <p>6月12日（月） 織田中学校授業参観 3年B組 Learning from News Articles 小山美奈教諭</p> <p>10月18日（水） 城崎小学校授業参観 5年生 Unit5 Where is the post office? 山越史也教諭</p> <p>11月13日（月） 織田中学校 2年B組 Unit4 Homestay in the United States 笹川源也教諭</p> <p>11月15日（水） 宮崎中学校授業参観 2年A組 Unit6 Research Your Topic 内藤元彦教諭 3年A組 Unit5 A Legacy for Peace 谷野優教諭</p> <p>11月21日（火） 越前中学校授業参観 1年1組 Foreign Artists in Japan 堀田 翼教諭</p> <p>12月27日（水） 郡英語主任会 ・令和5年度英語セミナー振り返り ・令和6年度鯖丹・南越地区英語セミナーについて</p> <p>2月（予定） 第2回丹生郡英語部会 ・各中学校の授業参観を終えて ・郡支部長会の報告 ・令和5年度英語セミナー</p>

部	部長名	活 動 内 容
越前市・南条郡・今立郡部	網田 友紀 (武生第二中) (坂口分校)	<p>1 活動概要</p> <p>授業研究会は年3回行われ、全英語科教員が1回以上公開授業に参加し、授業力向上を図っている。例年合同で行っている丹南地区英語セミナーは、今年度各校または複数校での合同開催となった。ALTは武生二中ALTを講師に、丹南地区で合同研修会を行い、活動内容を検討、その活動を中心に各校でセミナーを実施した。</p> <p>今年の大きな取り組みとして、ブロック全体での評価の研究、教員の作問力、授業力向上を狙い、定期考査の共有化に取り組んだ。そのために、元万葉中学校長の尾形俊弘先生を講師に、テスト作成の研修会を行い、その後、信州大学酒井英樹教授を講師に、「言語活動の充実と指導と評価の一体化について～3観点を踏まえた指導と評価のあり方～」をテーマに学習会を行った。学習した内容をもとに各チーム（各校または複数校でのチーム）で定期考査を作成し、8月終わりにブロック全体で学年ごとに集合し、テスト検討会を実施した。テスト検討会は先生方にとって実践的なよい研修の場となり、2学期以降の指導改善に役立っている。</p> <p>2 活動実績</p> <p>4月19日 第1回英語科主任会（武生二中）</p> <p>5月25日 第1回授業研究会 (武生一中 谷口広憲教諭 参加者24名)</p> <p>6月28日 中教研鯖丹・南越ブロック研究集会（リモート開催）</p> <p>7月25日 南越ブロック英語科夏季研修会（武生二中 参加者27名）</p> <p>7月28日 南越ブロック英語科学習会（花筐小学校 参加者21名）</p> <p>8月 8日 東海北陸公立学校英語教育研究大会富山大会（1名参加）</p> <p>8月 9日 県中教研集会（リモート開催 2名記録者として参加）</p> <p>8月中 丹南地区英語セミナー（各校開催、または数校での合同開催）</p> <p>8月21、23、25日 南越ブロック英語科研究会 (武生一中、二中、三中)</p> <p>10月 5日 中学校英語弁論大会（武生商工会議所）</p> <p>10月11日 第2回授業研究会 (南越前中 宇原弘晃教諭 参加者14名)</p> <p>10月25日 第3回授業研究会 (武生二中 木戸美樹子教諭 参加者23名) (同時開催 第2回英語科主任会)</p> <p>12月27日 中学校英語指導研修会 (南越中 講師 尾形俊弘先生 参加者24名)</p> <p>2月28日 第3回英語科主任会</p>

部	部長名	活 動 内 容
敦 賀 市 部	浜上 千恵 (角鹿中)	<p>敦賀市英語部会では、本年度『ICT 機器を活用したこれからの英語授業』をテーマに、4年ぶりに『一斉授業研究』を実施した。生徒の英語力向上には、『授業改善』が欠かせない。本研究を通して、市内英語科教員全体の授業力が向上し、生徒の英語力向上へとつながることを願い、取組を再始動できたことが今年度の成果である。</p> <p>1 活動概要</p> <p>(1) 一斉授業研究会『ICT 機器を活用したこれからの英語授業』</p> <p>敦賀市立気比中学校 宮川 唯教諭の授業提供により、4年ぶりに全部員で参観できた。内容は、UD 商品の宣伝と「使ってみたい UD 商品 NO1」を決める授業だった。クロムブックで、UD グッズのプレゼンテーションを行い、ペアとグループで行った発表を中心に、使ってみたい NO1 商品を決定した。評価シートへの記入と振り返りも行った。グループの中で、生徒たちが熱心に P R する姿が印象的な授業だった。</p>  <p>(2) ALT によるクリスマスキャロル</p> <p>ALT 主導で、市内中 1 生徒対象に、毎年実施している行事である。ALT の笑顔とすてきな歌声のおかげで、生徒たちも元気にアクティビティを楽しむことができた。準備や計画は部員で行い、その後の活動については ALT をお願いする分業制を取ってきた。ALT の連携も深まり、生徒にとっては市内すべての ALT に会える貴重な機会となっている。今後は、内容や時期を再検討して、新たな内容でリスタートしていくことを検討している。</p>  <p>(3) G-TEC, 英語検定、SASA, 全国学調の検討・振り返り</p> <p>各調査の分析や振り返りなどを行った。なお、敦賀市は、これまで長年取り組んできた英語検定準会場受験を見直し、他の検定試験と同じように、本会場受験を保護者をお願いしていくことを確認した。</p>

部	部長名	活 動 内 容
敦賀市部	浜上 千恵 (角鹿中)	<p>2 活動実績</p> <p>4月17日 第1回部会 「年間活動計画等協議及び役割分担</p> <p>5月15日 第2回部会 授業研究にむけて 英語検定・全国学調の振り返り</p> <p>6月19日 第3回部会 英語科主任会</p> <p>10月16日 第4回部会 指導案検討会</p> <p>11月20日 第5回部会 一斉授業研究会・振り返り</p> <p>12月13日～14日 ALT クリスマスキャロル</p> <p>1月15日 第6回部会 研究会・SASA・行事の振り返り</p> <p>2月19日 第7回部会 1年間の振り返り・次年度に向けて</p>
三方郡・三方上中郡部	百田 忠嗣 (三方中)	<p>美浜中学校、三方中学校、上中中学校では、美方高校への連携クラスを中心に、美方高校教員による乗り入れ授業や集中講義などを行っている。連携クラスでは、高等学校での英語学習への橋渡しを念頭におきつつ、目指す生徒像を共有しながら、文法指導や言語活動などをバランスよく行った。また、高校1年生が来校し、中学生と交流したことで、両者にとって刺激を受ける機会となり、学びが深まった。</p> <p>10月6日には4町（美浜・若狭・おおい・高浜）7校が参加する中学校教科教育研究会の東ブロック（美浜・若狭）の研究授業を美浜中で行った。デジタル教科書の活用や、生徒の思考力・判断力・表現力を高める指導の在り方について研究協議を行った。</p> <p>次年度は、美方高校との連携だけでなく、町内の小学校との連携や中学校間の連携にも力を入れていきたい。</p> <p><b>【令和5年度活動報告】</b></p> <p>5月 中高一貫教育連携クラス年度初め打ち合わせ会議 三方中、美浜中に美方高校職員による授業開始</p> <p>6月 第1回中高一貫研究委員会</p> <p>9月 三方中、美浜中に美方高校職員による授業再開</p> <p>10月 嶺南4町中学校教科教育研究会</p> <p>12月 連携クラス教科担当打合せ</p> <p>3月 第2回中高一貫研究委員会</p>

部	部長名	活 動 内 容
小浜市・三方上中郡部	窪田 朋亮 (上中中)  仲野比佐代 (内浦中)	<p>本年度は中学2、3年生を対象に、若狭ブロック英語セミナーを実施した。予想を超える参加者が集まり、英語学習に対する意欲の高さを感じる事ができた。終了後はその場で指導者によるショートミーティングを行い、引継ぎも含めて検討を行った。会場や方法等、課題はあるが、次年度以降も継続していきたいという前向きな方向で話をすることができた。</p> <p>また、小浜市の英語教育研修会に、若狭ブロック全ての小中学校から教員が参加、さらに高校からの参加者もあり、小・中・高の連携について学ぶよい機会となった。</p> <p>〈活動概要〉</p> <p>(1) 「若狭ブロック中学校英語セミナー」  日時：令和5年8月8日(火) 9:15～11:30  会場：小浜市働く婦人の家(小浜市大手町)  指導者：県内ALT 9名、福井大学より4名、JTE 10名、養護教諭1名  参加生徒：61名(中2、3)  内容：ALTによるワークショップに5～6名のグループで参加  ダンス、ゲーム、クラフト 等</p> <p>(2) 小中連携  「小浜市英語教育研修会」に若狭ブロックの各小・中・高の英語教員が参加。  日時：令和5年10月12日(木) 15:00～16:30  会場：小浜市庁舎  講師：小浜市加斗小学校 松宮亨校長  内容：英語が使える日本人の育成について  ～英語教育 小・中・高 10年間の学びの接続～  参加者：小学校教員17名、中学校教員12名、高校教員6名</p> <p>(3) 小浜市授業づくり研究部会  日時：令和5年7月26日(水) 15:00～16:30  会場：小浜市庁舎  内容：全国学調・GTECの結果からの授業改善について</p>

# 県高教研英語部会・県高文連英語部会

代表理事 水 木 毅

## 1. 令和5年度高教研・高文連英語部会役員

部会長 竹本 俊穂（足羽高等学校長）  
副部会長 磯野 和之（藤島高等学校教頭）  
代表理事 水木 毅（武生東高等学校教諭）

※ 高教研英語部会は、加盟校英語科主任の先生が理事となっています。

庶務 山口 隆子（武生東高等学校教諭）  
会計 水木 毅（武生東高等学校教諭）  
事務局 武生東高等学校

〒915-0004 越前市北町89-10

TEL: (0778) 22-2253 FAX: (0778) 22-2259

## 2. 予算執行

〔高教研〕 本部より英語部会に160,500円頂き、県英語教育研究大会の運営費や、『会報』の印刷費に充てました。

〔高文連〕 本部より英語部会に187,000円頂き、高校英作文コンテスト（93,000円）・高校英語弁論大会（94,000円）の運営費に充てました。

## 3. 高教研英語部会理事会

令和5年5月25日（木）、武生東高等学校で行いました。令和4年度事業報告・決算報告、令和5年度事業計画・予算案を審議し、高教研大会・英語教育研究大会の発表校ローテーション等を確認しました。

## 4. 高教研英語部会総会

令和5年6月13日（火）、ユーアイふくいにて行いました。令和4年度事業報告・決算報告、令和5年度事業計画・予算案を審議し、高教研大会・英語教育研究大会の延期に伴う発表校ローテーション等を確認しました。

## 5. 福井県高等学校教育研究大会 英語部会

令和5年8月23日（火）、アオッサ県民ホールにて行いました。

大会主題 「一人ひとりの個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくり」を進めるため、「主体的・対話的で深い学び」を教科・科目の指導において、どのように実現すればよいか。

部会主題 外国語によるコミュニケーションを通じて「主体的・対話的で深い学び」を実現し、「一人ひとりの個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくり」につなげるためには、どのような指導を行うとよいか。

発表者： 田川 真理子（金津高校教諭）

西川 智康（高志高校教諭）

---

## 令和5年度 福井県高等学校教育研究大会 英語部会 記録

### 【発表1】金津高校 田川 真理子先生

「主体的に英語を学ぶ生徒の育成を目指して一新課程での取り組み」

#### 1. 金津高校の特色について

##### (1) 金津高校について

昭和58年開校 / 全日制普通科高校 / 1、2年生・・2クラスが中高一貫、5クラスが一般クラス  
※R5年度より3年生はすべてが一般クラスに

##### (2) 学校教育目標

「主体性・協働性を育み、個と集団の学びの力を高める」

- ・目指す生徒像「自然や人間・社会に親しみ、真理を体得し、信念を持って生きる品材」の育成

##### (3) 金津高校英語科について

- ・1、2、3年をそれぞれ4、6、5人で担当、ALTは8月より2人体制に
- ・2人が中学校での連携授業を担当
- ・週1の学年での教科会で情報共有・作戦会議
- ・学年担当 JTE と ALT でパフォーマンステストについて検討と実施
- ・授業公開週間での互見授業・研究協議

#### 2. 英語科としての課題設定

金津高校生徒「素直」「穏やか」「一生懸命」→「失敗を恐れる」「答えを求める」「冒険できない」

→英語科的に・・「応用問題ができない」「即興で話せない」

→「答えが予想できない問い」への対応力に課題がある

- ・・・教員としてのサポートは？

→「生徒に主体的に学ぶ意欲を持てる学習環境を設定したい」

(授業を変える、評価を変える、放課後や家庭での学習のあり方を共に考える)

「英語を好きな生徒も嫌いな生徒も、自分のベストを尽くしながら、仲間の活躍に刺激を受けながら授業やテストなどを通して成長してほしい」

\* 令和4年度からの「新課程」に際し、授業内容やパフォーマンステスト、評価の基準などを英語科として再検討・再構成

##### ① 授業内容・評価の再構成にあたって

- ・4技能使用の英語を使ったコミュニケーションの機会が十分あるか
- ・じっくり考えを深める時間・仲間から刺激を受ける機会があるか

##### ② JTE 単独の授業について

- ・英語を使う機会を確保
- ・授業の目的を明確に
- ・個人の中で考えを深めるベースを
- ・スクラップ&ビルド
- ・ICTの活用

### ③ TT について

- ・教科書の内容に関連した授業を（ポストリーディング的側面） ・ ICT の活用

※JTE 単独授業から TT への流れ（1, 2年コミュの場合）

JTE 導入 → 展開①各 Part 概要理解、Q&A → 展開②各パート 英文理解、  
Reading aloud, retelling

TT へ → まとめ（新たな input, output）

### ④ 試験問題の再検討

- ・英語コミュニケーション 知識・技能 / 思考・判断・表現力を問う問題（TT の内容も）
- ・論理・表現 知識・技能 / 思考・判断・表現力を問う問題（英作文など）

### ⑤ 観点別評価の内容について

- ・生徒に説明できる内容か、生徒に対してのフィードバックになっているか
- ・教員にとってシンプルなものになっているか
- ・英語科の中で合意が取れるか

### ⑥ 観点別評価の材料

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」…ペーパーテストとパフォーマンステストで判断
- ・「主体的に学習に取り組む態度（調整しながら学びに向かう姿、粘り強く学びに向かう姿、より良いものを仕上げようと努力する姿）」  
…パフォーマンステストに向けた取り組み、学習への取り組み

### ⑦ パフォーマンステストについて

- ・準備は各自で、発表は各クラス 2h (+  $\alpha$ ) で
- ・発表内容はテーマに沿っていれば自由→（主体的に言語活動に取り組んで欲しい）
- ・クラスみんなで発表を見て、相互評価→モチベーション向上につなげたい

\*パフォーマンステストのイメージ（Google Classroom のフル活用）

- ・徐々にタスクレベルを上げていく

1 年生 ・ ・ 多くの支援、基本的な語句や文

例 1 [ Have you ever ...? ] ・ ・ 論理表現 I 教科書をもとに課題設定

- ・自己紹介の拡大版 ・ 何について話してもよい

例 2 [ graph / table presentation ] ・ ・ 論理表現 I 教科書をもとに課題設定

- ・グラフか表を探し、それについて説明や考察を行う
- ・必ず出典を明記するよう指示

例 3 [ One Minute Speech ] ・ ・ 年間のまとめとして設定

- ・テーマを 3 つ生徒に指示し、1 つ選んで原稿を作成

1. コミュ教科書の Lesson から興味深かったものを 1 つ選び、自分で調べて  
深掘りしたものを共有
2. 自分の「過去」について話す
3. 自分の「未来」について話す

2 年生 ・ ・ 一定の支援、多様な語句や文

例 1 [ Who I Am and what I Want to be ] ・ ・ 論理表現 II 教科書をもとに設定

- ・自己理解+将来の目標を共有
- ・満点を目指すためのポイントを提示

3 年生 ・ ・ 支援はほとんどなし、多様な語句や文

⑧放課後活用・家庭学習（個別最適化への取り組み）

- ・放課後活用の時間（Golden Time）に英語科講座を開講
  - …英検対策、リーディング・スピーキング講座、学習会
- ・家庭学習で自主学習用のアプリを導入（目標スコア別4技能トレーニングアプリ）
  - …良い点 自分に合った豊富な問題、自分のペースで進められる
  - 悪い点 「紙に書く」ことができない、意識づけの難しさ、正解率と連動しない

3. 今後の課題

- ・様々な学力層の生徒が混在する中で、さらなる働きかけをそれぞれにどのように行うか
- ・他教科とどのように連携していくか
- ・評価基準のさらなる検討

**【発表2】 高志高校 西川 智弘 先生**

「自律的学習者をめざした本校における実践」

1 高志高校の特色

(1) 高志高校

昭和23年に創立し、平成27年度より高志中1期生が入学、令和4年度より「探求創造科」に学科再編する。現1・2年生は「探求創造科」のみとなる。2年次以降は、理系は「理数創造科」、文系は「人文創造科」として展開していく。従来は3年次から混合クラスであったが、令和5年度より1年生から外部入学生と高志中出身生の混合クラスを編成する。平成15年度からSSH（Super Science High School）を4期終え、現在も継続して指定されている。SGH（Super Global High School）に平成26年度～30年度に指定される。

(2) 育てたい生徒像

「克己・創造・敬愛」の校訓のもとスクールプランを立て、国際社会および地域社会のリーダーとして貢献できる知徳体の調和のとれた人材の育成を目標とする。

2. 英語科としての課題設定と取り組み

(1) 主体的・対話的な学び

①ペアワーク、グループワークの活用

- ・いろいろな場面でペアワーク、グループワークを取り入れ、対話的学びや考えを深める

②発問の工夫による授業改善

- ・3段階に分けた発問

「事実発問」：記憶、理解 → 「評価発問」：応用、分析、評価 → 「創造発問」：創造

- ・発問に工夫しながら創造的な学びに結びつける

例、教科書の題材“Power of Design”を元に、教科横断の要素を含むテスト問題の作成

「家庭科の実習でエコバックを作る際に、デザインで工夫したいことやその理由を含め

40語程度の英文で述べなさい。」

③自己選択

- ・講座、週末課題、自学用リスニング教材を複数用意し、生徒が自分のスキル・興味・関心に応じて選択
- ・2年次の学校設定科目（AE/RP/DD）を、興味・関心・身に着けたいスキルに応じ、1年時の文理選択の時に選択

(2) 探求的・創造的な学び（学校設定科目の活用）

- ・個々が選択した学校設定科目（7科目より）を通して行う
- ・社会の諸事情や世界の諸問題に関する情報を多角的に考察し、議論・討論・プレゼンテーションする能力を養う

①1年次（2単位）

BE（Basic Expression）

- ・高志中出身以外の生徒を対象にし、基本的な事項を学習し自分のことや身近なことを英語で表現する態度を養う
- ・7月に、1-minute speech —モデルスピーチを聞く→フォーマットに従い考える→スピーチを行う
- ・ルーブリックに従いALTと共に評価する  
ルーブリックを生徒にも示し、生徒が活動の見通しを立てる

Rubric

1. Language/Expression（知識・技能）
  2. Performance (Fluency, Volume, Eye-contact)（思考・判断・表現 / 主体性）
  3. Organization (Content)（思考・判断・表現 / 主体性）
- ・1年生の終わりまでには、プレゼンテーションの方向に向かう
  - ・令和5年度より1年時からの混合クラス開始に伴い、指導計画を変更中

PT（Practical Training）

- ・高志中出身の生徒を対象  
中学で、英語表現を学んでいるので、スピーチ・プレゼン等は行っている
- ・中学で養った力をもとに、自分の意見・考えを英語で表現する力をつける
- ・TEDスタイルプレゼン — モデルスピーチ→ブレインストーミング→フォーマットに従い作成→発表→パフォーマンスに重点を置いたルーブリックで評価
- ・ディスカッション→ディベート（即興型）に向かう

②2年次（2単位）

自分が選択した科目を通し、リサーチにより知らない事や他の考え方に気づき、相手を尊重する異文化理解の姿勢を育成する。

AE（Advanced Expression）

- ・基礎基本と英文構成力の定着、表現力の育成
- ・エッセイライティングを行い、それを元にスピーチを行い、ルーブリックで評価  
例、”My future career”, “Around Koshi”

RP（Research and Presentation）

- ・教科書で学んだ事をもとに、リサーチし英語にまとめプレゼンテーションを行う

- ・グラフ、データ、数値を使い提言につなげる

例、“The Impact of Food Loss and Waste”

DD (Debate and Discussion)

- ・英語により、リサーチ、ディベート、ディスカッションする力の育成
  - ・スピーキングをスキルアップし、Speech → Presentation → Debate/Discussion につなげる
- 例、スピーキング「日本の文化紹介」 →プレゼンテーション「食品ロス問題について」  
→ディベート（3人それぞれの立場で議論→ディベートにすすむ）→即興型ディベート

### ③3年次

来年度に、IP (Integrated Practice)、CW (Change the World)

### 3. 今後の課題

- ・観点別評価への対応、何をもって、思考判断・主体性を図るかを考えていかねばならない
- ・生徒の主体的な学び自走する生徒の育成、自分の力を客観的に見る力、自分の求めているスキルを客観的に見つけ、自分で走る生徒をどう育成するのかの課題
- ・いろいろな事を共有し話し合う研究体制の構築
- ・選択型研修旅行（アメリカ、オーストラリア、シンガポール、東京）での実践

---

## 【質疑応答】

金津高校へ

Q (藤島) 観点別評価内の知識技能と思考判断表現力の区別をどのようにしているのか。

A 悩んでいる。単語・文法は知識技能として扱う。ワークなどとは問題を変え考えさせ、思考判断表現として扱う。採点者で話をして評価の基準を決めている。

Q (仁愛) パフォーマンステストについて、アンケートコメントなどの自分の振り返りをどこかに保存するのか。

また生徒同士で評価を共有するのか。自分のクラスメートに伝わったという実感はあるのか。

A Google Classroom 上で保存をする、スプレッドシートにすることもできるし、生徒間でコメントを共有できる。

金津高校から

Q ALT 2人になるが、その活用法を教えてほしい。

A (武生東) 13クラスあるが一つのクラスにTTほぼ全時間ALT 2名が入り、効果的な教育ができる。

ALT 1人当たり1週間で16コマ。

A (武生) TTの内容をALTとJTEで共有しやすくなっている、また個別指導を多くできる。

A (高志) 英語活用の時間に入ってもらっているが、同じ時間にTTを回せるし、個別指導がしやすい。その他の活用法は模索中。

A (藤島) 一年生に1名 二年生に1名 個別添削、部活、パフォーマンステストを時間内にできるなど

A (羽水) TT 後必ず宿題を出し、さらにそれをリライトさせる、のを2名のALTで回せている。

高志高校へ

Q (武生東) (英語とは関係ないかもしれないが) 1年生を混合クラスにした理由

A 多様な価値観を共有させるため、特に高志中学生のために。対話が発生し、個性を発揮させる。

Q (司会) 資料の P3 STEP2-5、6のQuestionについて、考えた後の活動はどうしているのか。

A やりとり (Student 同士、のちに全体でシェア) その活動をふまえた質問をライティングのテストで出題。

Q (金津) ディベートの評価・取り組む姿勢をポイント化してるのか? グループ? 個人? で評価?

A ディベートをして、グループごとについてルーブリックでその中で役割を1人1人評価する。毎回毎回評価するわけではない。3つのラウンドが同時進行、評価は難しい。しかし役割での評価は負荷が違うのでなかなか難しい。ディベートの勝敗についての評価はない。ロイロノートで録音してそれを聞いて役割スキルを評価に加えることも。

(金津) どこで評価するか疑問だったので、質問させていただきました。

## 【ご高評】

(教育総合研究所 高橋先生)

(金津高校に)

- ・課題、即興性、答えを予想できない問いへの対応、答えが予測出来ない問いに対応する力は有意義
  - ・生徒同士の話し合いで、対話的な学びが加わり協調的な活動になる
  - ・主体的に取り組む工夫がなされている
  - ・教科書で学んだことを元に発言している
  - ・パフォーマンステストでは、自由な発言、グラフ・表を基に教室で行う活動がともにある
  - ・評価で、ルーブリックのポイントを示し、生徒と評価項目を共有している
  - ・試験問題の検討を学習指導要領に沿い、3観点から行っている
  - ・他の教科と連携・横断し問題解決活動を行っている
- 話し合いは日本語で、プレゼンは英語で行う時、他の教科の知識の活用し課題解決に向かうのは、答えが予想できない問いに対して有効

(高志高校に)

- ・主体的・対話的な学び、探求的・創造的学び
- ・主体的・創造的な学びでは、ペアワークやグループワークを効果的に活用
- ・発問の工夫で授業改善。事実発問、評価発問、創造発問で生徒の興味関心に結びつく
- ・新しい英語を聞き、生徒の気づき・深い学びへと結びつける
- ・課題を複数用意し、生徒に選択を任せ、指導の個別化に結びついている
- ・パフォーマンステストの時には、ルーブリックにより生徒が活動の見通しをたて、活動の証明

にもなっている

- ・2年生は、即興型の活動で探求の目的を超えた活動に到達
- ・生徒の活動をフィードバックし学びにつなげること、生徒の自己評価も教師側の評価と同じように重要

〈高校教育課 酒井先生〉

(両校に)

言語活動、それを図るパフォーマンス活動を行っている。金津高校は、授業改善を通して育てたい生徒を明確にし、言語活動を行っている。高志高校では、学校設定教科の目標に沿い言語活動し、目的にあわせた授業を行っている。評価については、金津においては、パフォーマンステストにグループクラスルームを有効に活用している。高志高校においては、生徒がループリックを通して、何が出来て何が出来ないかを気づくようし、学習しようとする態度が育成されている。評価基準を示し、生徒が学習計画を立てられるようにしている。

(指導主事連絡協議会より)

- ・グローバルに活躍できる人材の育成
- ・語学力・コミュニケーション力等の育成
- ・第3期計画では、CEFR A2 レベル以上を5割に。令和4年は、全国48%、福井県60.8%。
- ・第4期では、グローバル人材の育成を目指す。積極性を持ち、多様性への理解を促す  
CEFR A2 レベルを5年後に、6割以上を目指す。5年後にはB1 レベル3割以上を目指す。  
現段階では、全国で21%、福井で26%。
- ・生徒の言語活動、教師の英語による発話の割合、ICT 活用、ALT 活用の割合が到達度に影響
- ・言語活動の充実。コミュニケーションを行う目的や場面状況に応じた活動
- ・領域を統合した活動
- ・やりとり (S-T、S-S、S-S-S) について
- ・フィードバックを行い、使える表現、出来たことや出来なかったことの確認
- ・英語を用いて何をするか (目的)、その言語活動のために何をするか
- ・パフォーマンステストの向上  
生徒の言語活動、教員の英語での発話割時、遠隔地の生徒や ALT との交流の割合が福井は高い。  
CEFR の到達度に影響。
- ・外国語教育はこう変わる (文部科学省 YouTube 公式チャンネル)

## 企画部

部長 内田冬萌（高志高校）  
副部長 西口佳光（武生高校）

### ●高等学校

#### 第62回高校英作文コンテスト

期日：9月23日（土）  
会場：各高校  
参加：合計389名（校内予選を含めると621名）  
共催：高文連  
後援：県教委・福井新聞社

委員長： 葛 将愛（武生高等学校）  
  
中井 慶子（奥越明成高等学校）  
伊藤美智子（足羽高等学校）  
蓑輪 和生（武生東高等学校）  
百田 貴哉（若狭高等学校）  
稲葉百合子（仁愛女子高等学校）  
田中 操（敦賀気比高等学校）

- ・コンテスト会場を各高校に設けていただきました。ご協力有り難うございました。
- ・各校の参加者数を制限させて頂いておりますが、それより参加希望者が多い場合は校内選考をされている学校もあります。その際には採点をお願いしておりますが、ご協力に大変感謝しております。

#### 第63回高校英語弁論大会

期日：10月7日（土）  
会場：福井県国際交流会館  
参加：1部25名・2部8名・3部2名  
共催：高文連・ライオンズクラブ  
後援：県教委・福井新聞社・福井テレビ

委員長：山口 隆子（武生東高等学校）  
  
田川真理子（金津高等学校）  
園井 圭介（丸岡高等学校）  
青山 秀樹（福井農林高等学校）  
吉田 充宏（高志中学校）  
森 三穂（丹生高等学校）  
永田乃理子（丹生高等学校）  
西口 佳光（武生高等学校）  
中内 浩貴（美方高等学校）

- ・第1部の2位と第2部の1位が、第16回全国高等学校英語スピーチコンテスト東海北陸ブロック大会（静岡大会）に出場しました。東海北陸ブロック大会では第2部に出場したサスロバ・ミレナさん（仁愛女子高校）が2位入賞を果たしました。
- ・ライオンズクラブによる次年度の海外派遣生選考会も兼ねていますが、海外派遣は中止、代わりにブリティッシュヒルズ（国内の語学研修施設）への派遣となりました。各部入賞者中の希望生徒に後日面接選考会を行いました。

## ●中学校

<b>第66回中学校英語弁論大会</b>	委員長：細川 頼久（尚徳中学校）
期日：9月25日（月）	新谷 俊裕（丸岡中学校）
会場：武生商工会議所	中島 佑介（灯明寺中学校）
参加：41名（36校）	和田 祐樹（鯖江中学校）
後援：県教委・読売新聞社	

---

- ・第1部（午前）と第2部（午後）に分けて実施しました。
- ・各部の最後に、生徒同士が小グループで感想を述べあう交流会を実施しました。
- ・上位3名が高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に出場しました。
- ・今年も多数参加いただきました。熱心なご指導を有り難うございました。

## 中学校英語セミナー

各ブロックが主催する中学校英語セミナーに対し、企画部から活動の補助を行っています。各地域の特性を生かしたセミナーを実施しています。

主催：福井県中学校教育研究会英語部会

共催：関係市町教育委員会、関係市町中学校教育研究会英語部会、福井県英語研究会

後援：福井県教育委員会

## ◆高校英作文コンテスト委員会

### 第62回福井県高等学校英作文コンテスト

委員長 蔦 将 愛 (武生高校)

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、様々な行事が再開されることとなった学校も多くあったのではないのでしょうか。しかしながら、その脅威が完全に去ったとは言えず、依然として生徒そして教員一人一人の意識がこれまで以上に求められることになったようにも感じます。そのような状況ではありますが、まずはこれまで通りの生活が戻ってきたことを喜ぶとともに、今後の学校行事、学校生活に気を引き締めて取り組んでいきたいと考えています。英作文コンテストにおきましても、実施に際しましては、マスクの着用を呼びかけていただいたり、教室の換気に気を配っていただいたりと、様々な点でご協力をいただきました。おかげさまで何とか本年度もコンテストを実施することができました。各学校の先生方をはじめ、関係者の皆様方にまずは心より感謝の言葉を申し上げたいと思います。

さて、今年も語彙力の差によらない生徒一人一人の個性、創造性、独創性で訴えられる作文を書いてもらえるような出題内容に努めました。高校生らしいユニークな切り口の作品や、物事を真剣に考えて意見をしっかりと展開している優れた作品が数多く集まりました。

出題形式別に振り返ってみますと、A部門では、「My Challenge」や「もしAIロボットが自分を助けてくれるなら？」など、実生活に沿ったテーマに対して、率直に考えや意見を表明している様子が見られました。また一方で、「Where would you like to work in the future, in Fukui or in another prefecture?」というテーマには、地元の福井に帰ってきて、両親の家業を継ぎたいといった意見や、東京で企業をして福井にも支社を作りたいなど、意見を論理的に展開するようなテーマもあり、四苦八苦しながらも結論に辿り着こうとしている努力が垣間見えました。

B部門は、今年も読んでいて楽しく、奇抜な発想と豊かな創造力が発揮された優れた作品が数多く寄せられました。空へと一人の人間が梯子を登っていく様子の絵に関しては、この絵はある人間の心の中を表しており、その人物の挑戦や困難に対する葛藤を描いているといったようなメタ的な内容の作品が見られました。また、どこまでも続いているような一本の道を表した絵に関しては、一人の人間の人生を一本の道で表しているといった内容のストーリーや、星空の下で写真を撮っているときに奇妙な出来事に巻き込まれる、といったストーリーなど、その内容は多岐に渡りました。いずれの絵の作品も、ストーリーがおもしろく、感情移入のしやすい、引き込まれる作品でした。毎年のことながら、B部門に参加する生徒の発想の豊かさと創造力には感服させられます。

C部門においては、今日の社会問題について問われた3つの課題について、賛成・反対それぞれの立場から様々な意見が述べられていました。中でも「大学入試で女子枠が設けられるなど、性別に基づく差別を是正する動きが活発化していることについて意見を述べよ」という課題に対しては、最近新聞やテレビで取り上げられることが多い話題のためか、そのメリットデメリットについてよく理解した上で意見を述べていることが感じられました。また、「英語を日本の公用語にすべきか」という課題に関しては、日本の大切な文化は言葉に根付くものであるため、日本語を大切にすべきだから反対だという意見があったり、なるほどと思わせる作品がたくさんありました。学校においては、日頃から主体的に深く考えたり、情報を整理して分かりやすく相手に伝えたりするような活動が取り入れられてきているためか、よく練られた具体的な意見の述べられた作品が年々増えているように感じられます。

コンテストの開催におきましては、各校の英語科の先生方には準備の段階から実施、発送にいたるまで多大なるご協力をいただいております。開催の過程で些細なことでもお気づきのことがございましたら、事務局までご連絡ください。今後ともコンテストの発展のためにより一層のご指導をお願いして、今年度の報告にかえさせていただきます。

### <実施要項>

主 催	福井県高文連英語部会 福井県英語研究会
後 援	福井県教育委員会 福井新聞社 NHK福井放送局
協 賛	財)げんでんふれあい福井財団
趣 旨	本県高等学校生徒の英語力の向上を図り、その発表力を高めることを目的とする。
日 時	令和5年9月23日(土) 午後1時30分から3時まで
会 場	県内各高等学校

### <実行委員>

【委員長】	薦 将 愛 (武生高)	伊 藤 美智子 (足羽高)
【実行委員】	中 井 慶 子 (奥越明成高)	田 中 操 (敦賀気比高)
	稲 葉 百合子 (仁愛女子高)	蓑 輪 和 生 (武生東高)
	百 田 貴 哉 (若狭高)	Jeremy Bernat (武生第二中学校)
	Ryan Thornton (羽水高)	Lilian Adams (丹生高)
	Anthony Nisich (陽明中学校)	Nick G (森田中学校)
	Sarah Zachariason (奥越明成高)	Tess Stevenson (武生第一中学校)
	Max Fuller (大東中学校)	
	Kyle Tisdale (明道中学校)	

### [入賞者一覧]

		最優秀受賞者	優秀受賞者
A 部 門	1年	該当者なし	該当者なし
	2年	清 水 心 月 (坂 井)	加 藤 悠 来 (坂 井)
	3年	加 藤 明日香 (科学技術)	佐 部 一 葉 (科学技術)
B 部 門	1年	藤 沢 至 宝 (足 羽)	菅 野 媛 菜 (武 生)
	2年	森 良 紘 (武 生)	吉 村 心 花 (福井商業)
	3年	泉 初 音 (丹 生)	藤 井 零 (武生東)
C 部 門	1年	小 野 翔 希 (福井商業)	山 本 和 奏 (武 生)
	2年	星 山 琉 音 (敦賀気比)	加 藤 瑞 稀 (武生東)
	3年	渡 辺 七 星 (丹 生)	有園ガブリエレ (足 羽)

[参加者数一覧]

会 場	1 A	2 A	3 A	1 B	2 B	3 B	1 C	2 C	3 C	合計	校内選考会 を含む数
大 野	0	0	0	2	0	0	2	0	0	4	4
藤 島	0	0	0	7	1	0	8	0	0	16	16
羽 水	0	0	0	0	0	0	0	0	27	27	27
福 商	0	0	0	8	6	0	14	6	0	34	78
仁 愛	0	0	0	6	2	0	5	1	0	14	14
三 国	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	4
坂 井	0	26	0	0	0	0	0	0	0	26	26
金 津	0	0	0	1	5	0	2	5	0	13	13
科学技術	4	0	2	0	0	0	0	0	0	6	6
足 羽	0	0	0	13	2	0	2	10	3	30	60
鯖 江	0	0	0	1	0	0	0	9	4	14	14
武 生	0	0	0	7	4	0	1	12	0	24	24
武生東	0	0	0	4	2	5	6	8	5	30	120
敦 賀	0	0	0	0	4	0	3	6	0	13	13
美 方	0	0	0	4	3	0	16	3	0	26	26
敦賀気比	0	0	0	6	3	0	4	8	0	21	21
若 狭	0	0	0	0	3	0	0	4	0	7	7
武生商工	0	0	18	0	0	0	0	0	0	18	18
丸 岡	0	0	0	0	7	0	0	29	0	36	36
福 井	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2
勝 山	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
丹 生	0	0	0	0	4	3	0	10	6	23	75
合 計	0	6	3	48	48	13	45	82	83	389	621

武生東、福商、羽水、敦賀気比、足羽は校内選考会を実施している。校内選考会を含む数とは、校内選考会に参加した生徒全員の数を指す。

## My Challenge

Mitsuki Shimizu  
Sakai High School

Many people think that trying something new difficult. However, I think this idea is that you are giving up on growing yourself. Don't you think it's a waste? It doesn't matter how trivial it is. A challenge is to do something that you have never been able to do before. Believe in yourself and try it. I'm sure you'll be able to do this. I think some people don't know how to challenge themselves. So I would like to introduce some of "My challenge."

The first is to challenge my limits. For example, training harder than usual or spending more time studying. There are various ways to do this. The point at which you challenge yourself is when you think you can do no more.

The second example is to be proactive in everything you do. Many may wonder how this connect to "My challenge." In fact, the initiative itself is a challenge. By doing so, you can motivate yourself. Now, let me ask you one question. What do you think are the benefits of doing this? The answer strengthens the motivation improve of take on challenge.

Every person is motivated by something are interested in, right? It is make use of human instinct. It makes your own brain think, "I'm interested in this." This makes is easier take on your challenges, even if they are difficult. And the results can be good. Thus, I have introduced "My challenge."

I think any person takes courage to do something unknown. Even so, just a little courage and challenge can lead to wonderful results. I will continue to challenge myself. And I want to expand my possibilities. I am looking forward to seeing how far I can grow

### 3 A 部門最優秀作品

## My challenge

Asuka Kato  
Kagi Technical High School

My challenge was returning from injury. I am in the bicycle racing club in high school. I participated in bicycling in May. So, I injured my right collarbone. I had my right collarbone operated on. The doctor advised me not to practice for a while. Those days were an important season and I abstained from the inter high school preliminary. I was in a panic. After about one month, I could start practicing. I practiced bore the pain of my wound. To be honest, I never felt pain and it was hard mentally. Come around inter high school preliminary. I did my best. Judging only from the result, I do not go to inter high school general meeting. I kept back my tears. This year is my last inter high school general meeting in third year. I was frustrated at my misfortune. At the same time, why I must have an injury me. Do not understand. I had a talk with my mother. I think better make more during practice. Now I returned at last. I will go to college after graduation. So, I will go on with bicycle racing club in college. I do well both in studies and in club activities. And I do not give up! Do not give up my dreams.

### 1 B 部門最優秀作品

## The road monster

Shihou Fujisawa  
Asuwa High School

On a cold night road where light seems to be out of reach: “Dad, have you heard of the road monster?” “The what?” The father confusingly answers his son's scary but rather interesting question. “Yeah, the road monster dad. They say that the road monster attacks when you least expect it,” the child answered with a nervous tone. “Well if there is a road monster, what will it look like?” The father hysterically laughed off his little son's humorous tale. “Well they say the monster looks humanoid, pale and said to have deranged, gnarly sharp teeth and it is used to suck the blood and the organs out of its victims and leaves them with just skin and bones.” The explanation that came out of the innocent-looking child caused the dad to gross out. “Eww...” the father driving claimed. “Well that’s what the rumors say dad,” the child said with a hint of frustration. While heading back home, their car ran out of gas. They had no choice but to go through a strange road way full of bumps and mysterious white rocks. They reached their destination, an old worm-eaten gas station that seems to be working despite all the damage done

due to the rust and dirt. “Okay we’re here!” said the father. “I’m gonna pump the gas, and I’ll also go to the toilet,” the father said. “Okay...” the child answered. The child waited in the cold cramped car. Seconds turned into minutes and minutes turned into hours. The child lost his cool going out of the vehicle to find his beloved father. He steps into the gas station hoping to find his father. It was all silent no signs of life. The child called out his name “Dad. Stop playing around.” Till he takes a look behind the gas station. He saw a mountain of leathery skins piled on top of each other. The child, petrified, looks over desperately trying to find his dad until he saw a pale humanoid figure, mouth stained in deep crimson red with a wide smile.

2B 部門最優秀作品

## The Moment

Yoshihiro Mori  
Takefu High School

Here is a quiet forest. There is no house, no person, and no shop around here, only a long concrete road is running. Mr. Dominic who likes taking picture of landscapes arrived at here. He also likes driving, so he has been excited to come here since he got his driver license. He said “It is almost six p.m. It will be the time of sunset. I want to see a beautiful view with a staring sky. ” Thanks to no mechanical lights, many stars in the sky can be seen more beautifully.

It became night and turned dark completely. He was cooking a vegetable soup with cooking took for the camp. “There are few clouds in the sky, I will be able to take so great pictures!”, he said. He prepared a camera and began to take pictures for many angle. He also took a photo of star’s orbit with releasing the shutter in a long time. He thought tonight is very peace and quiet then, but in next moment, an unbelievable thing happened.

It turned very light around here. He was confused and thought UFO had come in Earth. However, his intuition was wrong. Why it had turned very light there at that time? The reason is in the sky \_\_\_\_\_.

After two months, he still remembered that things. He thought that is a dream. He looked taken photos by himself again. There are not only very beautiful but also very precious. He decided to apply an international photo competition. He excited to get high valuations of his photos. In order not to be made wrong use, he had never showed anyone about these pictures. He expected only to the competition’s result.

More a month passed. A letter put into house’s post. This is the result which he was very excited. In the letter, a piece of paper held. And it written “Congratulations! You won First Prize!!”. He felt very happy and was proud of having a hobby of taking photos. On the comments of result, “The photo speaks the beauty and vanity of the universe, and shows the important moment of the world.” He made the photos as his first treasure with the title” The Moment”.

## What happened one morning

Hatsune Izumi  
Nyu High School

One morning, a ladder connect to the sky appeared in front of me. I left my home to go to school as usual, but I thought I try to climb this ladder. I put my foot on the first step and I climb the second and third step. I wonder how long this ladder lasts. Then when I put my foot on the next step, strong wind blew. I held the ladder. Maybe it's just me, but it smelled like the sea. I just kept climbing the ladder without looking down. When I put my foot on the next step, strong wind blew again. This time I heard the sea of ocean waves and nostalgic someone's voice. I wonder who it is. I couldn't remember. But I kept climbing. When I realized it, I was climbing the ladder by the night where the clouds were floating strangely, there were a yellow petal a little above. When I looked closer, a petal was not falling but floating. Moreover, when I reached to take it, there was an invisible ceiling. The petal was on top of it. I was very surprising. Then a man appeared on the other side of the ceiling and at the same time I was surrounded the smell of the sea. His face can't see because it's back it. I asked "Who are you?" He answered "Long time no see." His voice was the same voice I heard earlier I remembered. He is my father who died 7 years ago to help me from drowning while playing in the sea. It is my father's voice. I shouted "Dad! Dad!" My eyes became full of tears. He said "You're grown so well, are you doing well?" I said "I wanted to meet dad. I want to go there. How can I go there?" He answered "Don't come here. You haven't seen the amazing view yet, right?" I said "I don't care about that! I haven't been able to laugh since dad died because of me. So I don't have any friends at school. I'm alone....." He answered "You are strong. It's OK." Then my father disappeared. "Dad!!" The next moment, the ladder also disappeared. I am falling. I just saw the view below for the first time. I thought that this was the amazing view my father had talked. I could see that sea. The horizon was just widening. It was so beautiful that my worries seemed small. And I can see my home. My consciousness became gradually distant.

When I wake up, I was in bed. I got up from bed and I was stunned for a while. Everything until now was a dream. I noticed something in my hand. I was surprised when I opened my hand. Because there was a yellow petal that appeared in my dream. Dad..... I grab it, get out pf bed, and start getting ready for school.

## 1 C 部門最優秀作品

# “Teacher”

Toki Ono  
Fukui Commercial High School

The job that robot can't replace is “teacher.” I have a few reasons why I feel this way.

In my opinion, I think “teacher” is one of the people who tell us about way of life. Mostly, we learn it from our parent or grandparent. From parent we learn the behavior, manners, how to use chopsticks, how to write our names, how to ride a bicycle and “love.” From grandparent, we learn the wisdoms of the ancients, their experiences such as was and former life style, and “love.” From teachers we learn mathematics, Japanese, English, science, social studies, history, geography and “love,” but their “love” is a little bit different from what parent and grandparent give. Almost every day, they give homework to their students. I think it is their “love.” When the students did something bad, they scold them. I think it is their “love.”

When we got homework, when teacher got angry, we usually be upset or feel bad, but they did such things to educate their students to great person. I think that if they don't care their students, they won't do such things.

However, the robot doesn't have “heart.” This “heart” is not same as the heart of internal organs. It means the feeling to love people and feel sad, like as mind. The robot just followed the data which made by people. Due to this, the robot doesn't know “love,” they just know the meaning of love, but they don't know how to love people.

Therefore, I don't think that robot can take the place of “teacher” which is the job that loves their students.

## 2 C 部門最優秀作品

# Who is the “Sexist”?

Ryune Hoshiyama  
Tsuruga Kehi High School

What do you think about sexual discrimination? Of course, it is bad things. No one should be discriminated against because of their gender. Recently, the movement to get rid of sexual discrimination is getting active. For example, there is some university that is taking women students besides normal students. However, I think that is not good things. I have two reasons.

First, distinguishing with gender is the start of discrimination. In the past, there was a male dominant culture. I guess that the university that adopts the system wanted to eliminate a male dominant, but first of all, discrimination starts from the mind: they are different from us. To

correct inequalities between the sexes, universities should take students fairly by test scores.

Next, it can be female chauvinism. If our effort to get rid of male chauvinism finally led to other sex discrimination, that is like putting the cart before the horse. We should respect all gender, not just women nor men.

Therefore, I disagree with the university that takes women students in particular. However, I also think that we should eliminate sexual discrimination and I don't contradict their posture to discrimination. Just what I want to say is we have to consider all people. I wish that the world become equal and free for all people. To realize that, I want to think what is a discrimination and what is an equal society once again.

### 3C 部門最優秀作品

## Which one would you choose?

Watanabe Nanase  
Nyu High School

The occupation that I think AI cannot replace human is the medical profession. For example, doctors, nurses, pharmacists, and midwives. They have the ability to notice even subtle changes in a patient's facial expressions and external changes in the body, such as edema and tremors. However, this doesn't mean that AI cannot take on the role of medical profession. What is the essence of medical care? That's love.

Recently, surgeries that combine AI and robots have become widespread around the world but question arises here. AI is using during surgery when the patient is under anesthesia and asleep. On the other hand, AI is not used in inpatient words when patients are awake. This shows that there is some hesitation about AI interaction directly with patients. AI has no emotion, no struggle, no fatigue, no pain. Could this be the cause? There are all things that patients must want to share with medical worker. Therefore, medical workers must be cooperative and loving people. In the medical field, medical care needs to be tailored to the individual needs of patients and their families.

However, after a certain incident, I started wishing for the spread of AI in the medical field. It's the COVID-19 pandemic. As the number of infected people increase, the number of hospital beds decrease and medical workers are overworked. AI robots can continue working because they don't get infected and don't feel fatigue. Do you love patient? Should we take measure to reduce the burden on medical workers and prevent infection?

AI sometimes exhibits abilities far beyond what we humans can imagine. However, we mustn't choose the wrong place to demonstrate our abilities. The first example is the medical field. "AI is limitless. Life is finite." That is why we should not give priority to the use of AI, especially, in medical settings, lightly.

Which would you choose? Loving medical care that doesn't use AI and support for medical professionals that use AI.

## ◆高校英語弁論委員会

### 第63回福井県高等学校英語弁論大会報告

委員長 山口隆子（武生東高校）

令和5年10月7日（土）に第63回福井県高等学校英語弁論大会が県国際交流会館にて開催されました。コロナ禍がようやく収まり始めた今年度は、コロナ対策による規制をほぼ解除した状態で実施することができ、やっと通常の大会運営に近づいた安堵感がありました。特に引率者や保護者の観覧制限をなくしたことで、出場した生徒はより多くの聴衆に自分の思いを伝えることができ、達成感のある経験になったのではないかと思います。

ただし、完全に以前の大会に戻ったわけではありません。少しでも会場内の人数を抑えることを考慮し、午前午後の完全入れ替え制ではないものの、当日閉会式はせずに審査結果発表は後日という形をとりました。コロナ対策のために実施してきた方法を緩やかにしたものでしたが、審査に十分な時間をとることができるという利点もあり、大会運営方法の見直しを考えるきっかけになりました。これを機に今後検討していく予定です。

今年度の大会では、第1部に15校から25名、第2部に4校から8名、第3部に2校から2名の参加がありました。1部と2部はほぼ例年並みの参加者数でしたが、3部は例年より減りました。英語に少しでも興味を持っている生徒が、人前で話す楽しみを実感する機会となるこの大会に積極的に参加してくれることを期待します。

今年度のスピーチも、個性溢れるバラエティーに富んだ内容でした。自分自身や家族のこと、好きなことなど身近な話題を話す生徒もいれば、地元福井や日本、または世界で起きている様々な社会問題を取り上げた生徒も多く見られました。各学校での探究活動からスピーチの構想を得た生徒もいたかもしれません。高校生らしい考えや提案を生き生きと伝え、聴衆の心に響く説得力のあるスピーチを行う姿に、毎年感心させられます。

また、上位大会である東海北陸ブロック大会（静岡県開催）には、第1部に植田まりあさん（武生東）、第2部にサスロバ・ミレナさん（仁愛女子）が本県代表として出場しました。サスロバさんは「幸せとその在り処」と題して自身の経験を語り、見事2位に輝きました。本県からは久しぶりの入賞です。後掲の優秀者原稿もご覧ください。

今年度もこの大会にご協力いただき大変ありがとうございました。素晴らしいスピーチを披露した生徒のみなさん、その指導にあられた先生方とALT、難しい審査をお引き受けいただき温かくアドバイスをしてくださる審査員の先生方、会場関係の方、そして大会を盛り上げるべく長年ご尽力いただいているライオンズクラブの皆様に対し、弁論大会スタッフ一同より心より感謝申し上げます。来年度の大会も多くの方に見守られながら、何よりも出場する生徒たちにとって充実した大会になりますことを願っています。



## I. 大会要項 (抜粋)

### 第63回福井県高等学校英語弁論大会

1. 主催 福井県高文連英語部会 福井県英語研究会  
ライオンズクラブ国際協会 334-D地区 5R
2. 後援 福井県教育委員会 福井新聞社 福井テレビ
3. 日時 令和5年10月7日(土) 午前9時30分より
4. 会場 福井県国際交流会館 多目的ホール
5. 委員・審査員  
委員 ◎山口 隆子(武東高) 田川真理子(金津高) 園井 圭介(丸岡高)  
青山 秀樹(福農高) 吉田 充宏(高志中) 森 三穂(丹生高)  
永田乃理子(丹生高) 西口 佳光(武生高) 中内 浩貴(美方高)  
審査員  
第1部 村 香織(福井工業高等専門学校) Simon Woodgett(県庁)  
熊谷 正(福井県立大学) Emily Miser(大東中)  
第2、3部 吉田三郎(敦賀市立看護大学) Bryan Bruns(明倫中)  
渡邊 綾(福井大学) Sine Burrige(小浜二中)
6. 本年度(令和5年度)参加者数

部 門	参加人数	参 加 校
第1部	25	金津、丸岡、藤島、高志、足羽、大野、福井商業、仁愛女子、鯖江、丹生、武生、武生東、敦賀、美方、若狭 15校
第2部	8	足羽、福井商業、仁愛女子、武生東 4校
第3部	2	道守、武生商工 2校
合 計	35	17校

## 7. 実施概要

- (1) 第1部、第2部、第3部に分けてスピーチコンテストを実施し、成績優秀者を選出する。
- (2) 第2部において Questions & Answers (Interaction = 「やり取り」) を実施する。
- (3) 第1部、第2部で選ばれた各1名が、東海北陸ブロック大会に臨む。

## 8. 参加資格

福井県の高等学校および高等専門学校(1～3学年)などの学校に在籍し、学校代表として選出された生徒(第1部・第2部はそれぞれ各学校から2名以内、第3部は各学校から3名以内)とする。

第1部: 次の(a)(b)(c)に該当しない生徒

第2部: 次の(a)(b)(c)に該当する生徒や1部の有資格者だが2部に出場したい生徒

第3部: 英語の三年間の必修単位数が12単位以下の生徒

- (a) 満5歳の誕生日以後に、通算1年以上または継続して6ヶ月以上、英語圏（英語を第一言語、または公用語、または公用語に準ずる言語として使用する国、地域）に居住した者。  
 ※英語圏詳細については全英連ホームページ (<http://www.zen-ei-ren.com/>) を参照。
- (b) 日本国内、海外を問わず、6ヶ月以上、英語以外の教科に関し、実態として英語による教育を行っている学校（アメリカン・スクール、インターナショナル・スクール、または授業科目の半分以上を英語で教育を行っている学校を含む）に在籍し、その教育を受けたことのある者。
- (c) 満5歳の誕生日以後に、保護者または同居親族に、英語を母語とする者、もしくは英語圏出身の者がいる場合。

9. 制限時間 第1部、第2部は4分30秒～5分30秒。第2部のQ & Aは制限時間には含まない。（全国大会に準ずる） 第3部は4分以内。
10. 審査基準 全国大会に準じて審査する。  
 第1部、第3部 内容 Content 50点、英語 English 30点、話し方 Delivery 20点  
 合計 100点  
 第2部 内容 Content 50点、英語 English 30点、話し方 Delivery 20点、  
 Questions & Answers (Interaction) 20点 合計 120点
11. 表彰 各部門の1位、2位、3位、および優良賞（参加人数に応じて若干名）
12. ライオンズクラブ語学研修派遣  
 入賞者の中から若干名、ライオンズクラブによる選考会（令和5年11月）を経て、国内語学研修（令和6年5月予定）への派遣生徒を選出する。

## II 入賞者

部 門	賞	氏 名	学 校	学年	演 題
第1部	1位	山口 桂 吾	美 方	2	Coming Out of My Shell Like a Turtle
	2位	植 田 まりあ	武 生 東	2	Clean Water for Everyone
	3位	辻 川 もも香	仁愛女子	1	Beyond the Shell
	優良賞	土 田 來 楽	福井商業	2	Japanese Traditional Craft - Echizen Lacquerware
	優良賞	谷 口 愛	藤 島	1	Elderly Care : Love Never Grows Old
	優良賞	辻 野 生 希	鯖 江	2	Taking Care of Pets
	優良賞	山 本 和 奏	武 生	1	Thank You Dad
	優良賞	飯 田 千 智	藤 島	1	The Style of Yourself
	優良賞	田 端 慶 大	金 津	1	No Music No Life
第2部	1位	サスロバ・ミレナ	仁愛女子	2	Happiness and Where It Lives
	2位	加 藤 瑞 稀	武 生 東	2	Passing Down Our Culture
	3位	有園・ガブリエレ	足 羽	3	Consequences of Fake News
第3部	1位	山 本 莉 愛	道 守	2	Open the Door to Your Heart
	2位	水 野 凌 芽	武生商工	2	Coexistence with Artificial Intelligence

（優良賞は出場順にて掲載）

### Ⅲ. 各部門優勝者原稿

【第1部 第1位】

## Coming Out of My Shell Like a Turtle

YAMAGUCHI Keigo  
Mikata Senior High School

I still can't believe that I am making a speech in front of so many people. Usually, I am quiet and shy. I rarely talk with others and sometimes I even avoid eye contact. Truthfully, I would be the last person to make a speech on such a big stage. But I'm here to come out of my shell and share my inner voice.

Back in the day, I was not this kind of person. In elementary school, I was typically more active and outgoing. My class teacher understood me and my personality which improved my self-esteem. I didn't worry about what other people thought of me. However, after entering junior high school, I found myself making a protective shell. I was so afraid that someone would hurt me with bad opinions so I didn't share my true thoughts. Too often, I heard students sharing mean things, even about their own friends. I wanted to protect myself from being hurt.

Since entering high school, that condition has become somewhat better but my shell is still thick. This shell is not a bad thing, as long as I peek my head out once in a while.

It's not easy, sticking your head out. Recently, I had a very big chance to speak in front of many people. In school, we worked on a research assignment. I joined the project that activated the Obama Line. At first, I didn't want to join this project because the experience was new and different for me. My team planned a very unique event, "GACHA travel". In this event, participants would get on the train and travel around the Wakasa region. They would decide a trip spot by a gacha choice and do a mission my team created. The aim for this event was to get more passengers on the Obama Line.

On the day of the event, I was so nervous about coming out of my shell and speaking in front of people. This was my first public speaking experience. My group had to introduce the project and explain the missions to almost 50 visitors each day at Obama and Tsuruga station. I did my best to teach about the event and reply to any questions from guests. There were a lot of families at this event and they listened closely to my introduction. Suddenly I felt happy and forgot my fear.

To our surprise, our team won the volunteer awards for 2023. In Tokyo, my team had to explain to other high school students about our activities. There were a lot of students who explained their own activities with confidence. The students looked like they were having fun. Also, there were adults who listened to our explanation and asked us targeted questions. Through this event, I learned it is important to think about how I live my life. Many people enjoyed my presentation but they had no idea how challenging it was for me. Other people won't worry about what I am doing, so I should live my life freely. I want to come out of my shell more, and this stage gives me a chance.

Having a protective shell is not a bad thing. Everybody needs safety from the difficulties of the world today. If we don't protect ourselves first, we will be worn down by society's opinion of us. But just as a turtle peeks out of its shell, it's important for us to come out of our shells and face new challenges. Even if we are shy and quiet, we can still tackle new experiences with courage. Don't let fear drive you away forever, stick your head out once in a while.

【第2部 第1位】

## Happiness and Where It Lives

SHASHLOVA Milena  
Jin-ai Girls' Senior High School

When did you last feel truly happy? Yesterday? The day before? Maybe last week?

When we're kids, we're happy. We laugh at the smallest of details and appreciate the world around us. As a kid I was happy, too - all the time, every day. I simply loved the colorful world around me, I loved my friends, and I loved what I was doing. I was following my heart and trying everything I could, absorbing the wonderful sights and sounds of the world in my own unique way. But as I grew up, the world around me began to turn grey. My curiosity vanished and I realized that I wasn't living with happiness anymore. Where did it go?

When I was little, my mum decided to send me to dance school to keep my posture and health. I fell in love with ballet and I continued to dance throughout my teenage years. However, ballet school is notoriously hard, and those who don't fit into the standard usually fail. I was always told to lose weight, and because of the way I looked, I was always put in the back in any group dances we had. But I didn't want to give up. I wanted to do my best and prove that with enough work, I could be just as good as anyone else. At some point in my life, I did lose weight, just as my teacher told me. I should have been happy, right? But I wasn't. Actually, that was the first time I lost a part of my cheerful self. I had turned a little grey.

I'm sure this feeling is familiar to us all. Constantly throughout our lives, we're told what to do, who to be, how to behave. The most sensitive of us will break under this pressure and follow the crowd. It seems that, to some extent, we're always influenced by the majority around us.

At school, it wasn't easy, either. Some people say good grades make your life at school easier, but for some reason it was the opposite for me. Yes, I was praised for studying a lot and performing well, but unfortunately, the more successful you are at the beginning, the more people push you. And since I did ballet at that time, I was always told to give up on it and study more to be an even better student. At the end of Junior High, I injured my toe, and couldn't dance for a

while. Once again, I gave in and focused on studying more, just like my teachers told me. I felt miserable and angry at myself. That's when I lost another part of my colorful self.

In our modern society, we're constantly bombarded with advertisements, with different opinions, and controversies. We're easily influenced by something celebrities say or recommend. We want to be popular, too, so unconsciously we give in, we do something just because someone said it's cool. But oftentimes this doesn't make us happy, nor does it make us feel cool because it's not something our heart really wants. We lose our happiness because we stop listening to ourselves, and we lose our true colors.

So, what should we do when suddenly the world becomes grey; when we feel compelled to follow someone else's idea, and our own opinion is left in the background?

Once we start appreciating the smallest of details, appreciating the world we have now and all our accomplishments, no matter how little, we will feel happier. In the end, happiness is something only we humans have. And even though we can only see it in our head, the colors of happiness really are everywhere. That beautiful flower that blooms on the first day of April, those wonderful autumn leaves ranging in color from golden to red, your eyes, your face, the book you've read the night before - it is all something that brings us, humans, some happiness. It is something that we have to find by ourselves, without repeatedly falling under the dulling and noisy influence of others.

So, where does happiness live? Right here, in our hearts, and right here, surrounding us. We just have to listen to ourselves and let the colors in.

## Open the Door to Your Heart

YAMAMOTO Rina  
Michimori Senior High School

Hello everyone. Imagine this. What would you do if you walked into a closed, empty room? A room with no phone, no TV, no pencil, and a locked and heavy door in front of you. You don't feel any emotions. This was the scene in the closed ward where I was hospitalized for my illness.

Back in junior high, I developed an eating disorder and my abnormal eating behavior made it impossible for me to eat, resulting in extreme weight loss. I also couldn't think clearly and found it difficult to manage my daily life, leading to my hospitalization.

In the closed ward, I was subjected to various treatment programs. I was fed through a nasal tube because I had difficulty feeding myself. And if I didn't follow my prescribed meals, my activities would be restricted. I would think to myself, "Why do I have to be in this place?" I spent my days thinking, "I don't care what happens to me".

I had no choice but to face the program, even though I didn't want to. It was a challenging situation, and I lacked confidence in myself. I constantly compared myself to others and believed I had to be a certain way. I even thought my existence was meaningless. Looking at myself was the last thing I wanted to do.

But facing myself turned out to be the key to overcoming my illness. I had to accept reality and stop running away from it. It took time, but here I am now. I found a dream, and I realized that the door I thought trapped me was actually the door to my dream.

In that closed door, I encountered another side of myself that was harming me. At first, I didn't understand that there was another version of me inside, and I saw others as my enemies. But as I faced myself, I recognized its existence and understood that the person I had to fight was not someone else, but myself. Gradually, as I opened the door, I began to see the people around me.

We all suffer in different ways. Some people want to escape and close the door to their hearts. And there are many who still suffer. Some might have been hurt by someone. But resenting or blaming others won't help, and you cannot ask anyone but yourself to open the door. I believe that in the end we have to look at ourselves, be strong and open the door ourselves.

I am not the person I used to be. Even if I stumble, I can change my mind and move forward on my own. I really enjoy painting a dream beyond the heavy door that is now open.

It is you who holds the key to unlock the door to your heart. Embrace yourself, face your challenges, and step into a brighter future filled with hope and dreams.

Thank you.

## ◆中学校英語弁論委員会

# 第66回福井県中学校英語弁論大会報告

委員長 細川 頼久 (尚徳中学校)

令和5年9月25日、県内より41名が参加し、第66回福井県中学校英語弁論大会を実施いたしました。参加各校においては、学校祭や秋季新人大会など、行事が重なる忙しい中での校内選考や発表準備であったと思われますが、ご担当の先生方をはじめ、関係者の皆様のご尽力により、盛大に大会を開催することができました。ありがとうございました。

近年は新型コロナウイルス感染症対策のため、人数制限のため保護者や引率者の入場をお断りしていましたが、今年度はその対策を緩和させました。結果として、生徒たちは保護者をはじめとする参加者の家族、引率教諭、ALTなど多くの観客を前にして弁論を披露することになりましたが、練習の成果を十分に発揮し、プレッシャーの中でも立派に思いを語っていました。来賓の方からも、「レベルの高い英語弁論大会で驚いた。」とお褒めの言葉をいただくことができました。優勝を勝ち取った武生第六中学校の井上豊大さんは、「It's a small world」という題で、戦争についての思いを語ってくれました。同タイトルの歌で軽快にスピーチを始めたかと思うと、ロシア、ウクライナ間での戦争に触れつつ、世界で唯一の被爆国である日本の悲惨な経験について、実際に体験された方からの言葉を引用しながら分かりやすく伝えていました。「説明する」のではなく、「戦争を体験された方の言葉を届ける」という手法をとり、この悲劇を「二度と繰り返してはならない」と強く訴えかけていました。

2位になった至民中学校の和田明日香さんは、「Now a Proud Chopper」のタイトルで、部活動で経験した葛藤と自身の成長について語りました。自分のプレースタイルについて、コーチとの考え方の違いに悩んだこと、その後「自分のやりたいことを貫こう」と決意してプレースタイルを変えたことが、自分の大きな成長につながったことなどを教えてくれました。

同じく2位となった高志中学校の林依知花さんは「Being Alone」のタイトルで、「他者とうまく馴染めない」という自分の特性について話してくれました。「一人で時間を過ごすことの利点」を突き止め、「自分の特性は悪いことではない」と考えられたこと、「他に迎合するのではなく、自分の思うままに行動できる自分でありたい」と強い意志をもつことができたことを教えてくれました。

今年度は新たな取り組みとして、第1部と第2部の終了後それぞれに、小グループになって生徒同士が感想交流をする時間を設けました。これは、この弁論大会を単なる「スピーチ発表の場」ではなく、「思いを伝え合う場」へと進化させることが目的でした。実際には、その場にいたALTや引率教員たちも参加し、他の発表者の良かった点や話の内容について思ったことなどを伝え合う様子が見られました。多くの生徒が、緊張から解放された安堵感の中、同年代のいわば「戦友」たちと互いの努力を認め合うことができ、笑顔で時間を過ごしていました。

さて、初めて委員長の大役を拝命し、多くの方にご意見やご助言をいただきながら企画運営をし、こうして無事に大会を終えることができました。ご指導やご助言をいただいた方々はもとより、大会の運営にご協力いただいたすべてのみなさまに感謝申し上げたいと思います。今後も、どうぞ中学校英語弁論大会の運営にご理解とご協力をお願いいたします。

【入賞者】	優勝	井上 豊大 (武生第六中学校)	It's a Small World
	第2位	和田 明日香 (至民中学校)	Now a Proud Chopper
	第2位	林 依知花 (高志中学校)	Being alone

入賞者原稿  
【優勝】

## It's a Small World

INOUE Yudai  
Takefu Dairoku Junior High School

It's a world of laughter, a world of tears. It's a world of hopes and a world of fears. There's so much that we share that it's time we're aware — it's a small world after all. This is the song "It's a Small World." In the last year, I thought a lot about this song because of Russia's invasion of Ukraine. We share this small world, so why do we fight wars? Everyone knows that war is wrong, but we still can't stop war. I wanted to know more about war and think how we can solve this problem.

This summer, I met a kind, elderly man. He welcomed me with bright eyes and a smile. But as we talked, those bright eyes filled with tears. Yokota Yukiharu was in the sixth grade when Fukui was firebombed, so he remembers those days clearly. He remembered running to the shelter which was already full. They turned him away, and he had nowhere to go. He jumped into the Asuwa River and covered himself with a wet futon. As he told me about the dead bodies he saw floating near him, I could see him reliving those memories in his head. The firebombing lasted eighty long minutes. After it was over, Mr. Yokota looked around at his city. There was nothing left. It had disappeared completely — even the roof tiles were gone. For the rest of the world, time moved on after the war. But for Mr. Yokota, time stopped when he saw these horrific things. To this day, he feels heat and smells burning in his nose. His story was so shocking to me, and it was way more terrible than I thought. I've learned about war in history class, but his memories made everything real and they made me think about the people in Ukraine.

The war ruined everything in an instant. Beautiful cities instantly became burnt fields with nothing but broken buildings. Those cities look the same today as Fukui does in Mr. Yokota's memories. Innocent people lost their lives in their homes. These terrible things are happening in real life today just as they happened eighty years ago. We live in a modern world, but war is the same as always.

For many young students in Japan, news of war or people dying may be like a drama or movie, not real. It's so far removed from our lives. But Mr. Yokota's story made me realize how sad losing the people we love is, and how important our lives are. Lives never come back. So we need to find places and times where we can meet with people like Mr. Yokota who understand the suffering of war and the hatred it creates in people. We need to speak with people like Mr. Yokota who understand how important life is and how much we need peace and love. Of course, I already knew that war is wrong, but when I heard Mr. Yokota tell me, "we must never have war," that message truly reached my heart. Soon, we may not be able to hear what they want to tell us. So it is our responsibility to learn what we can from them for future generations. Every time their stories are shared, we take a step closer to a world where everyone understands that war must end. We live in a world of laughter, but it becomes a world of tears the moment that war begins. Our world of hopes and dreams is suddenly filled with fear. We all share this small world, so it's time we're aware — war must end with us.

入賞者原稿  
【第2位】

## Now a Proud Chopper

WADA Asuka  
Shimin Junior High School

Have you ever given up on something that you wanted? If you have, was it because you listened to someone else, like a teacher or a member of your family? I know what that pressure feels like. I, too, often worried about what other people thought of me. It was in junior high school that I was able to gain more confidence in myself and believe in what I thought was right. What happened? Let me tell you about it.

When I entered junior high school, I joined the table tennis club. A year later, the girls' table tennis club advisor changed. The new advisor, who was more experienced, once said to me, "How about changing your play style from an 'offense style' to a defensive 'chopper style'? If we had a chopper, the team could be stronger." The boys' team had a strong boy 'chopper' player; the way he played was very cool. I wanted to play like him. I somehow believed that I could be a better and stronger player if I adopted this new style.

I also belonged to a local table tennis club, and when I told my coach that I wanted to be a 'chopper', she told me flatly that I couldn't be one. I was very upset. When I got home, I told my mother everything. She called the coach, trying to support me, but the coach insisted, "I have been playing for over 30 years. I know some national-level choppers. You don't know how difficult it will be for you to gain those skills. There is no way."

Can you imagine how I felt? Maybe she was right. I had better give up changing my play style. In bed that night, I cried and cried. My mother saw my tears and said, "Why don't you do what you want to do?" It was those words that encouraged me to believe in myself. That was when I decided that I was going to be a 'chopper'.

I learned how to play the chopper style from my school's club advisors. I practiced it with my team players diligently (about half a year) and as a result, I was in the top 16 players at the Fukui Regional Fall Rookies' tournament. After that, I went on to the prefectural tournament. My new defense style often made my opponents miss and lose points. I began to realize that it was good to keep believing in what I wanted to do. My local club coach, who had previously disagreed with me, was watching my games. She said, "Let's practice the chopper style." Wow! She accepted my new play style! I was glad that I could change her mind through my effort and hard work.

At the last official summer prefectural tournament in the ninth grade, I was the only one from my team who could participate in the prefectural tournament. In the individual competition, I moved up to eleventh place. I was very happy, especially when I beat a strong player whom I had never beaten before. She often failed to return the balls that I chopped.

If I had followed my local club coach, I would have regretted it. I am proud that I did my best for what I wanted to do, instead of what others told me to do. What is most important is to, "believe in yourself and do whatever you want to do." Now I am a proud chopper.

入賞者原稿  
【第2位】

## Being Alone

WHAYASHI Ichika  
Koshi Junior High School

You don't know how good it is to be alone!

My name is Ichika Hayashi. Let me tell you what my "ichi" means. The first is "ichi" for number one, because I love to be the best. The second is "ichi" for "only one," because I like to make my own one-of-a-kind things, such as crafts. And the last "ichi" means being alone! This is called "Bocchi" in Japanese. "Bocchi" refers to the state of being alone, not with friends.

Yes, I am a bocchi! Since I was a child, I have never been able to fit in with a group because of my low energy level, my scary face, and my inability to laugh along with others. All the girls in my class are very lively, and I do not feel comfortable with their laughter echoing throughout the class. Even if I tried to talk to them myself, it was difficult to keep up with the energy in the group.

In the meantime, I could not fit in with the class and every day during recess, I would run away to another class. I was not able to make many friends in my class, so when it came time to form a group, I was not able to make any partners, and even when it came time to move to another class, there were no friends waiting for me. But I still feel happy with the life I have.

There is a reason for that.

Recently, I auditioned for a musical to be held at my school festival and was asked to play the lead role. At that time, people around me were bad-mouthing me when I was not there. I was in a dark place, and I became a "bocchi" again. It was then that I came across these words.

"Do what you feel in your heart to be right – for you'll be criticized anyway."

These words are by Eleanor Roosevelt.

Eleanor Roosevelt (1884-1962) was the wife of Franklin Roosevelt and a well-known human rights activist. Eleanor drafted the Universal Declaration of Human Rights as the U.S. representative to the United Nations and spent much of her life working on issues of women's empowerment and the human rights of vulnerable groups.

When I came across the words, I thought that if there is a possibility of being criticized and being lonely no matter what I do, I would like to do what my heart thinks is right and enjoy being "Bocchi".

I don't have friends unless I go to them myself, and I don't have time to talk to them during breaks; but on the other hand, I can make my own choices, and I don't have to be influenced by others.

Isn't it definitely cooler to be a "bocchi" than to "lose yourself" by laughing at things that aren't even interesting to fit in with the people around you? So I even feel proud about being a Bocchi. There is nothing wrong with being a bocchi.

I am not saying that it is bad to be with friends, but I want to be a person who has a strong sense of self, who talks to others when I feel like talking to someone, who values time alone when I feel like being alone, and who does not force myself to be liked by others.

I can't laugh at things that aren't funny, and I don't like things that I don't like!

It is precisely because this is the time of year when we are often in groups at school that I want those who are losing sight of themselves due to worries about relationships with friends and other people to cherish the time they spend with others, but also the time they spend alone by themselves.

I would like to cherish the time I have alone from now on, and look for things that I can do only by myself.

# 放送テスト部

部長 栗田 由紀枝 (明道中学校)

日頃より英語放送テスト部の活動におきましては、ご理解とご支援をいただき心より感謝申し上げます。おかげさまで今年度もほとんどの公立中学校（20,000名余り）と、多くの高校（2,200名余り）の生徒のためにご採用いただきました。

今年度、本部会では4名の新規部員を迎え、31名のメンバーで活動しています。また、部員の先生方、働き方改革が推進される中、問題作成に多大なる協力をいただくことで放送テストが発行されています。問題作成、録音、校正を部員で行っています。

生徒の日常会話で想定しうる状況や内容をより自然な場面設定の英文で再現されるよう問題を作成しています。

## 1. 令和5年度 各問題の出題範囲・発行回数・発送日

各問題の出題範囲（A, B, Cの出題範囲は東京書籍2021年版NEW HORIZONに準拠）

種別	対象（発送日）	第1回（5月中旬発送）	第2回（11月初旬発送）	第3回（1月初旬発送）
A	中学1年生	NEW HORIZON 1 P.4 Unit0 Welcome to Junior High School ~ NEW HORIZON 1 P.36 Grammar for Communication 2 名詞	P.37 Unit 4 Friends in New Zealand ~ P.76 Grammar for Communication 5 代名詞	P.77 Unit 8 A Surprise Party ~ P.121 Stage Activity 3 My Favorite Event This Year
B	中学2年生	NEW HORIZON 1 P.122 Learning LITERATURE in English ~ NEW HORIZON 2 P.34 Let's Listen 2 インタビュー	P.35 Unit3 My Future Job ~ P.82 Let's Listen 5 留守番電話	P.83 Unit6 Research Your Topic ~ P.121 Stage Activity3 My Favorite Place in Our Town
C	中学3年生 高校1年生	NEW HORIZON 2 P.122 Let's Read 3 Pictures and Our Beautiful Planet ~ NEW HORIZON 3 P.34 Let's Listen2 講演	P.35 Unit 3 Animals on the Red List ~ P.70 Let's Listen 5 世界で働く人へのインタビュー	P. 71 Unit 5 A Legacy for Peace ~ P. 114 これからの英語学習法
D	高校1, 2年生	範囲や指定語句は設定していません。		

## 2. 令和5年度 会議実施

・問題形式や活動方針に関する全体会議	3回（6月, 11月, 2月）
・問題作成会議	9回（夏季・冬季休業中） ※9時～17時
・録音および校正会議	6回（録音会議は9月, 10月, 2月の土曜日 ／校正会議は各録音会議の3週間後）

・結果検討会議	1回（正答率の低い問題について検討）
・チーフクラス方針会議	3回（必要に応じて随時）

### 3. 問題作成について

- ・問題作成の負担軽減のため、過去問を一部使用することにしました。今年度は平成29年度の問題を使用しています。
- ・A～D問題の間1の問題において、読まれる英文は繰り返しをせず、一度だけしか読まれないう変更を行いました。
- ・D問題の指示文を全て英語にするという変更を行いました。

### 4. D問題について

H27年度から高校生用のD問題の発行を中止していましたが、D問題復活の要望があり、令和3度から過去の問題より抜粋し、A～Cと同様のテスト形式にて作成しています。ALTの協力を得て、不自然な表現や場面を改良しながら作成しています。

### 5. 結果検討について

本部会は問題を作るだけでなく、その後に正答率やIDI（上位25%と下位25%の正答率の差）の統計を算出し、正答率が低かった問題については部内で検討しています。今年度も3月末に結果検討会議を開き、問題改善に向けて正答率やIDIなどのデータをもとに検討会を行ないます。合本については、昨年度と同様に、データは掲載しますが、正答率の低い問題についてのコメントは掲載しません。

### 6. 令和5年度 部員および役割分担

No	名 前	学 校 名	No	名 前	学 校 名
1	若 島 聡 美	明倫中学校	17	山 田 紘 子	丸岡中学校
2	嶋 田 晃 士	光陽中学校	18	加 藤 修	春江中学校
3	中 島 佑 介	光陽中学校	19	佐々木 祥 子	中央中学校
4	河 合 啓 子	明道中学校	20	☆柳 川 大 亮	中央中学校
5	笠 松 政 世	進明中学校	21	伊 藤 文 彦	武生第一中学校
6	小 川 陽 平	進明中学校	22	木 戸 美樹子	武生第二中学校
7	☆田 邊 礼 佳	至民中学校	23	吉 本 美 里	武生第三中学校
8	ハート 真由美	藤島中学校	24	☆泉 有 香	南越中学校
9	坂 本 ゆうき	大東中学校	25	中 村 真 士	小浜中学校
10	☆松 田 ひとみ	鷹巣中学校	26	田 嶋 由 美	坂井高校
11	魚 岸 彩 佳	森田中学校	27	水 嶋 崇 太	鯖江高校
12	竹 澤 沙 貴	森田中学校	28	大 村 昭 友	足羽高校
13	兼 井 智 加	義務教育学校	29	(部 長) 栗田由紀枝	森田中学校
14	河 合 創	義務教育学校	30	(副部長) 野崎 恵美	高志中学校
15	小 林 萌	松岡中学校	31	(副部長) 伊藤美智子	足羽高校
16	吉 田 広 視	金津中学校			

## 7. 放送テスト部員より一言

- 問題作成を通して、英語力を正しく評価するにはどのような設問にすべきなのかを考えるようになり、校内の定期テストの問題作成や評価にも、その視点がとてもいかされていると感じます。(伊藤美)
- 微力ながら、今年も頑張ります。宜しくお願い致します。(魚岸)
- 多くの学校で採用を！(大村)
- リスニング問題を聞く生徒のことを意識しながら、リスニング問題作成に取り組みたいと思います。(木戸)
- 働き方改革もあり、この部会も運営上色々課題があるとは思いますが、こんな時代だからこそ大事にしていかなくてはいけない活動だと思っています。もちろん、スリム化して効率化できるところはどんどんやるべきです。オンライン化もその1つです。作成、採点、輸送コストなどの大幅な削減が期待できます。生徒にとってもメリットがある。例えば(どこまで音声配信に制限をかけるかにもよりますが)、テスト後に音声をオープンにして何度も聞いたり、ディクテーションに活用したりもしやすくなります。部活動が縮小(ゆくゆくは地域移行)され、行事が精選され、学校に残るのは授業になる。我々の本丸です。授業に魅力がない=学校に魅力がない。そんな時代になると思います。その授業で勝負をするために、テストづくりの技量を高めることは必須だと思います。自主研究組織でありながら、勤務時間内の出張になるこの部会は、大変ありがたく意義深い存在だと思います。みんなで、無理なく、でも続けていけたらなと思っています。(河合創)
- 同じ学校から若手の先生が新しくメンバーに入りました。ドキドキしながら作成している様子を見て、自分もそうだったなと懐かしく思いました。また、ずっと会えていなかった元同僚の先生との再会も嬉しいものでした。(佐々木)
- 制限がある中学生の語彙に悩みながら作った問題。それを部員のみなさんに見ていただくと、自分が伝えなかったメッセージにより近い英語表現に改善することができ、中学校の英語教員としてとても大きな学びがあります。(兼井)
- 大変でしたが、英語科としてとても勉強になりました。負担感もあまりなく、参加することができました。(柳川)
- 今回初めて作成に携わらせていただき、作成の苦勞がよく分かりました。表現の吟味をする中で「授業でもこのような表現が使える」とか、「ここまで聞き取れる力を育てないといけないのだな」ととても勉強になりました。ありがとうございました。(松田)
- 毎回の問題作成会議で本当にたくさんのことを学ばせてもらっています。嶺南に異動になりましたが、今後ともお世話になります。よろしく願います！(中村)
- 「とても勉強になるな」と思いながらテスト検討会議に参加しています！(中島)
- 数回しか参加できていませんが、作成会議に参加すると、熱心な先生方からたくさん刺激をいただけて勉強させていただいています。よりよい問題を作ることができるようこれからも勉強させてください。(山田)
- 会議の時間は有意義なものだと思います。効率もよくなっていると思います。ミスないように協力していけるといいと思います。(野崎)
- 私にとって問題作成は、英語を使う仕事だと実感できる仕事の一つです。英語の用法や使用場面の自然さにこだわることで、自分自身の英語を磨くことにもつながっています。ALTと問題を推敲する中で毎回、新しい発見があります。他地区、異校種の先生方と一緒に仕事ができ、先生方の英語に対する認識の深さを教えてもらったり、授業のヒントとなるポイントを教えていただいたり、先生方の協力から、心温まる瞬間を何度も感じたりしています。問題を作り上げる達成感テストの採用がある限り、問題の作成に関わっていきたいと思いますが、教員の多忙が叫ばれる中、少しでも多くの先生方に参加していただき、一人一人のご負担が少なくなれば、と感じます。少しでも興味をお持ちの先生方、ぜひ、周りの部員の先生方や事務局にご一報ください。(栗田)

# 広 報 部

部 長 島 田 敏 宏 (金津高校)

今年度も広報部の部長を務めさせていただきましたが、まずもって、広報部の活動に御理解・御協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。今後とも変わらぬ御支援を賜りますようお願い申し上げます。会報につきましては、会員の皆様に興味を持って読んで頂けるような会報を目指し、これからも部員一同誠心誠意取り組んでいく所存です。『会報』では、継続して「英語科紹介」コーナーで、各校の先生方を紹介させて頂いております。好評を頂いており、引き続き紹介をさせて頂きたいと考えておりますので、依頼があった際には、御協力の程よろしく申し上げます。

また、広報部では英語研究会のホームページを管理・運営しており、インターネット上でいつでも会報を見て頂けるように更新しております。こちらも気軽に御活用頂けると幸いです。

最後になりますが、各校英語科主任の先生におかれましては、年度当初のお忙しい折に、会員名簿の作成にご協力頂きまして誠にありがとうございました。次年度以降もお世話になりますどうかよろしくお願い致します。

## 1. 令和5年度事業報告

- 1) 福井県英語研究会会員名簿発行 (7月、700部)
- 2) 『会報』第82号発行 (2024年3月、600部)
- 3) 福井県英語研究会ホームページ管理運営  
ホームページアドレス：<https://fukuieiken.jp/>

## 2. 令和5年度広報部員

部 長	島 田 敏 宏 (金津高校)
副部長	織 田 昌 宏 (大野高校)
部 員	稲 葉 芳 明 (大野高校)
	森 谷 町 子 (大野高校)
	川 田 裕 貴 (開成中学校)

## 各委員会より

### (1) リーディングテスト部会

活動内容：リーディングテストA, B, Cを4回分作成（会議は各回につき4回程度）

第1, 2回を6月上旬, 第3, 4回を11月中旬にそれぞれ配付

本年度も教科書の内容、言語材料に関連したリーディング教材を作成した。更に『Let's Read A, B, C』も例年通り改訂を加えた。なお、令和6年度Cの第1, 2回は嶺南リーディングが作成した。どの教材についても、生徒が無理なく読むことが出来るように既習の表現を用いて作成した。作成委員の先生方は常に社会情勢や流行にアンテナをはり、生徒に伝えたいことを英文に込めるよう努力されている。そのおかげで、中学生が興味を持って読み進めることができ、文章から十分な学びを得ることができる良問が作成できたと自負している。

本年度は新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、すべて対面で会議を行うことができた。校務の関係で対面での参加が出来ない先生方にはオンラインで参加していただき、多様な参加方法が可能になった。近年の働き方改革を受けて開始時間を早め、事前の電子メールによるやりとりで検討の時間を減らせるようになり、今では18:30頃には会議を終えられている。とはいえ、まだまだ作成委員の確保は本委員会の課題となっている。本年度も委員長の澤田先生をはじめ、参加した先生方の努力のおかげで、生徒の興味関心を引きつけるようなテストが完成した。新たに参加してくださった先生方の問題作成の技量も回を重ねるごとに向上し、充実した活動になったと思われる。

以下に令和5年度の各作成回の出題範囲を示す。令和6年度も変更しない予定である。

### (2) リサーチ委員会

作成委員の確保が難しいことからここ数年活動を停止している。冊子版の『Let's Read for Message』については、注文数が少ないため発行に至っていない。次年度も活動はしない予定である。

### (3) TEFL委員会

ALT とのより良いティームティーチングの在り方をテーマとして活動してきた。ALT とのティームティーチングは委員が所属する勤務校でも差があるだけでなく、これまで TEFL 委員会としてもあまり研究してこなかった分野でもある。そこで、より多くの教育現場の実態を把握するために、県内の ALT を対象としたアンケート調査を実施した。結果の詳細については、合本で改めて報告するが、「授業前後のコミュニケーション」「単元や授業のゴールの共有化」などがより良いティームティーチングには必要な要素だと考えられる。今後は、これらの要素を踏まえた実践報告も検討している。

また、今年度も **Bridging** を発刊する。新年度生の高校入学前や入学後に中学校で学んだ英語の復習に活用頂けるものである。是非、ご活用いただきたい。

#### (4) 英語ディベート委員会

本年度も研修会は全てオンラインで行ったが、全国大会が対面で行われることに準じ、県大会は対面で実施することとした。学期制の違いなど、スケジュール上の理由から研修に参加できない高校があるなど若干のトラブルはあったものの、各高校のネット環境が改善したこと、生徒や教員が経験を重ねつつあることもあり、各研修会をなんとか実施することができた。また大会では各高校の運営協力者や引率担当、県教委の先生方のご尽力はもちろんのこと、本年度は新たに県外のジャッジにはオンラインでジャッジをお願いする「ハイブリッド」開催を行うことで、これまでの知見を生かした大会運営を行うことができた。

- |           |   |
|-----------|---|
| 5～7月      | YouTube 視聴を通して、ディベート概論と各役割に関わる研修  |
| 7月23日(日)  | 第1回オンライン研修会【パーラ】練習試合  |
| 8月4日(金)   | 第2回オンライン研修会【アカデ】練習試合  |
| 9月9日(土)   | メイクフレンズカップ ジャッジミーティング   |
| 9月18日(祝)  | 第5回メイクフレンズカップ in Fukui 運営   |
| 10月1日(日)  | 第2回オンライン研修会【パーラ】練習試合【アカデ】練習試合   |
| 10月26日(木) | 引率者・運営協力者会議   |
| 11月3日(祝)  | 第16回福井県高校生英語ディベート大会(準備型)  |
| 11月12日(日) | 第7回福井県高校生即興型英語ディベート大会   |
| 12月16日(土) | 第18回全国高校生英語ディベート大会 in 栃木(帯同ジャッジ1名参加)<br>(～17日)<br>⇒藤島高校が8位入賞                                  |
| 12月23日(土) | 第9回PDA全国高校生即興型英語ディベート全国大会(～24日)<br>⇒藤島高校が10位入賞 英語ディベート授業導入優秀校として「主催者推薦」にて世界交流大会(オンライン)への参加が決定 |

次年度の活動内容：参加校数は今年度過去最大となった。今後も普及に努めるとともに、来年度の HEnDA 全国大会(岡山県)・PDA 全国大会(東京都)でのさらなる成績向上を目指したい。

#### (5) オフィス

教員が情報を交換し自分の授業力や作問力など、英語科教員として必要な力を磨く場としての英語研究会の場は大変貴重である。研究部の活動のいちばんの目標は生徒の英語力向上にある。そのためにも研究部として出来ることを部員全員で考えていきたい。各委員会においては委員長さんを中心に有効な活動を模索し、研究することで、成果に繋げていけたらと考えている。

(6) 令和5年度 研究部部員名簿

研究部 (オフィス)			
	職	名 前	学 校 名
1	部 長	村 昭信	三国高等学校
2	副部長	笹木 英俊	金津高等学校

リーディングテスト委員会 (嶺北)			
	職	名 前	学 校 名
3	委員長	澤田 亜紀	成和中学校
4	副委員長	進士 祐介	高志高等学校
5	委 員	稲田さとみ	丸岡中学校
6	委 員	和田 重	灯明寺中学校
7	委 員	伊藤江莉奈	足羽中学校
8	委 員	谷口 広憲	武生第一中学校
9	委 員	佐伯 菜那	明道中学校
10	委 員	宇原 弘晃	南越前中学校
11	委 員	伊藤 瑛里	進明中学校
12	委 員	水谷 友梨	武生高等学校
13	委 員	山口 直孝	福井東特別支援学校
14	委 員	加藤 有理	足羽中学校
15	委 員	水野 広隆	明倫中学校
16	委 員	池上 岳昭	栗野中学校
17	委 員	嶋田 剛久	藤島中学校
18	委 員	清水 慈昭	大野高等学校

リーディングテスト委員会 (嶺南)			
	職	名 前	学 校 名
19	委員	澤田 更紗	若狭高等学校
20	委員	百田 貴哉	若狭高等学校
21	委員	小竹 景士	敦賀高等学校
22	委員	上戸 大雅	若狭高等学校

TEFL委員会			
	職	名 前	学 校 名
23	委員長	百田 忠嗣	三方中学校
24	委 員	三仙 真也	藤島高等学校
25	委 員	山本 由貴	敦賀高等学校
26	委 員	本田 涼哉	若狭高等学校
27	委 員	松居 貴昭	大野高等学校
28	委 員	澤田 朋美	栗野中学校
29	委 員	宮内 望	松陵中学校

英語ディベート委員会			
	職	名 前	学 校 名
30	委員長	三仙 真也	藤島高等学校
31	委 員	木下 弥	奥越明成高等学校
32	委 員	西川 智康	高志高等学校
33	委 員	笹木 英俊	金津高等学校
34	委 員	松居 貴昭	大野高等学校
35	委 員	松山 公香	大野高等学校

リサーチ委員会			
	職	名 前	学 校 名
活動休止			

## ◆リーディングテスト委員会

委員長 澤田 亜紀 (成和中学校)

### <委員の先生方の活躍>

今年度のリーディングテスト委員会は、問題作成者に新たに2名の先生方をお迎えし、スタッフ4名、問題作成者17名（嶺北12名、嶺南5名）、計21名でリーディングテストの作成に取り組みました。昨年度から継続してご協力してくださった先生方はもちろん、新たに参加してくださった先生方、戻ってきてくださった先生方、非常に精力的に取り組んでくださり、感謝いたします。嶺北リーディングテスト委員会では、5月にオンライン会議を実施し、今年度の方針などを話し合いました。昨年度より、第一期を5月～8月、第二期を10月～1月と変更し、1ヶ月に1回のペースで検討会議を行いました。嶺南リーディングテスト委員会では、9月から1月にかけて、嶺北同様、月1回程度のペースで検討会議を行いました。会議と会議の間には、メールでのやり取りを積極的に行っていたいただき、毎回の検討会議の話し合いをスムーズに行うことができました。

### <リーディングテスト委員会の活動の様子>

リーディングテスト委員会の検討会議は、グループごと（A：中学1年生、B：中学2年生、C：中学3年生）に分かれ、チーフの先生を中心とし、終始和やかな雰囲気で行われています。どの先生も、書籍やウェブサイト、ご自身の経験などから、生徒が興味を持ちそうなトピックを取り上げ、よりメッセージ性の高い問題を作成してくださっています。

検討会議の場は、校種、年代、経験年数の異なる様々な先生方と、問題作成に関わる話はもちろん、貴重な意見交換の場にもなっています。リーディングテスト作成の技術は、英語教員に欠かせませんので、若い先生はもちろん、ベテランの先生方にもどんどん参加していただき、お互いのアイデアや経験をこの場で生かしていただきたいと思います。リーディングテスト作成に興味のある方、校種・時期を問わず、いつでも大歓迎です。

### <リーディングテストについて>

リーディングテストを作成するにあたり大切にしていることは、読み手である生徒に送るメッセージです。生徒に興味を持ってほしいこと、考えてほしいこと、気づいてほしいこと、学んでほしいこと、などを伝えられるような問題作成を心がけています。そして更に、これらのメッセージの読み取りを期待して、設問を作成しています。設問については下のような視点を大切にしています。

- ・ 本文に書かれた情報を整理するもの（語彙や新出の言語材料を理解しているか確認）
- ・ ストーリーの流れを推測するもの（文字情報からその後の流れを推測できるか確認）
- ・ 述べられている状況を絵で選ぶもの（文字情報から場面をイメージできているか確認）
- ・ メッセージを読み取るもの（筆者や登場人物が英文を通して伝えたいことをつかめたか確認）

テスト範囲のページ番号を各テストに記載し、授業の進度に合わせて利用しやすくなっています。また、「語数」を表記することにより、WPM（Words Per Minute）にも活用しやすくなったのではないかと思います。

## < Let's Read について >

リーディングテスト委員会では、過去のテストを冊子にした Let's Read (A~C) を作成しています。毎年改定を行っており、教科書改訂に伴う新出語句や文法事項の配列、トピックの精選にも気を配っています。旧教科書での作成範囲と新教科書の作成範囲が混在しておりますので、文法配列が新教科書に完全に対応できておりませんが、徐々に移行していきたいと思っております。その他、構成等に関わるご意見がありましたら、ぜひお寄せください。

## <リーディングテスト委員から一言>

- 先生方と議論していく中で、テストづくりのポイントが共有でき、大変勉強になっています。  
(南越前中 宇原 弘晃)
- 委員会は、優しい先生ばかりで、情報交換もしながら、楽しく参加させていただいています。リーディングテスト委員会に入ると、英語を簡単に伝えるパラフレーズ力が爆上がりします。ぜひ、一度会議に参加してみてください。よかったら、私たちと一緒に問題づくりましょう♪  
(丸岡中 稲田 さとみ)
- 委員の先生のおかげで、素敵な読み物教材が県全体で使われていることを嬉しく思います。いろいろな先生の手原稿を見せていただく度に、自分にはない視点を学ぶことができ、授業やテスト作成の参考にすることができます。先生方の参加が、未来の福井を救います。未経験の先生方は、一度参加してみることをおすすめします。  
(藤島中 嶋田 剛久)
- 今年度、リーディングテスト委員会に参加させてもらって以来初めて、会議直前まで案が浮かばず、ぼんやりした英文を持参することがありました。そんな英文でも、先生方のお力添えあって最終的に1つのテストとして完成することができました。いつも本当にありがとうございます。  
(武生第一中 谷口 広憲)
- 2年ぶりにリーディング委員会に参加し、今年も先生方の多くのアドバイスから、英文や設問作成の方法を勉強させていただきました。ありがとうございました。  
(足羽中 加藤 佑理)
- リーディング部会3年目が終わろうとしています。今年は、3年生の担任ということや校務分掌のこともあり、お断りしようかと悩みました。しかし、やると決めて最後まで頑張ることができたのは、同じ部会の先生方のサポートのおかげです。毎年この時期に思うのは、「やって良かった」ということです。リーディングテスト作成において勉強になることはたくさんありますし、ちょっとした雑談が息抜きになります。本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いたします。  
(明道中 佐伯 那菜)
- 院内学級に勤めて2年が経とうとしています。転入したての子どもとは、前籍校で使っていた教材を確認することから始まります。まれにリーディングテスト問題集をかたわらに置いている子がいますが、感想を尋ねると、反応はいろいろです。自分が作問にたずさわっていることは、ナイショなままです。  
(福井東特別支援 山口 直孝)
- その年の時事問題を踏まえて、生徒に考えてほしい英文を作るのが楽しく、自分自身も勉強になります。他の先生方の文章を読ませていただいたりするのも大変興味深いです。  
(武生東高 水谷 友梨)
- リーディングテスト委員会に参加させてもらい6年目になりましたが、毎回英語の表現や自分の知らなかった話題について勉強することばかりです。自己研鑽につながっていると感じます。  
(灯明寺中 和田 重)

○リーディングテスト委員会に参加して3年目になりました。毎回の会議でいろいろな先生の問題を読んだり、自分の問題を練り直したりすることで、気づかされることがたくさんあります。リーディングテスト委員会で吸収したことを今後もいかしていきたいです。1年間ありがとうございました。(進明中 伊藤 瑛里)

○最近の入試や教科書を踏まえながら、グループの先生方と内容や表現を吟味しています。その議論の中で、自分の学びになるものが多く、毎回参加するのが非常に楽しく有意義です。生徒たちも熱心に取り組んでおり、作り手としてのやりがいも感じる活動となっています。今後も、自己研鑽、そして福井の子どもたちのために続けていきたいと考えております。

(足羽中 伊藤 江莉奈)

○委員会を通して、中学生に読んで欲しい文章を考えることや、担当する範囲の既習語や文法でどのようにそれを伝えるかを委員のみなさんと考えることがとても良い経験になっています。今年度もありがとうございました。(若狭高 澤田 更紗)

○リーディングテスト委員会は今年で3年目になります。委員長の澤田先生のご指導のもと、3年目でも勉強になることが多々あります。自分にとってとても勉強になることが多く、非常にためになります。(若狭高 百田 貴哉)

○自分では思いつかなかった視点でアドバイスしていただけるので、大変勉強になります。それだけでなく、他校の先生方と気軽に情報交換ができるのもありがたかったです。

(栗野中 池上 岳昭)

○リーディング委員会に参加して2年目となりました。作問の過程が中学校のテキストを読み込む機会となり、中高連携の観点からも実りあるものとなっています。先生方からのご指摘の中でも学びがあり、楽しく参加させていただいております。(敦賀工業高 小竹 景士)

### 【今年度新メンバーより】

○リーディング委員会に参加して本当に良かったなと思います。私は本年度から中学校で勤務をしています。明倫で初めて定期テストを作成し、1回目のテスト検討会では、テストとは言えないようなものを作ってしまった。それもあって、リーディング委員会では、ベテランの先生方から、自分が作成したテストを見ていただき、会議を通して生徒が考え込める設問や英文のメッセージ性などを教えていただきました(もちろん明倫の先生方からもいつもたくさんアドバイスいただいています)。また、普段の授業や教科書題材についての情報交換をすることができ、とても貴重な時間を過ごせることができました。今後とも宜しくお願いします。

(明倫中 水野 広隆)

○今年度初めて参加させていただきました。作問の楽しさと難しさを体験することができました。様々な視点からご指摘を頂けるので、非常に勉強になります！(若狭高 上戸 大雅)

## ◆TEFL委員会

委員長 百田 忠嗣 (三方中学校)

今年度の TEFL 委員会では、ALT とのより良いチームティーチングの在り方をテーマに活動してきました。

まずは、TEFL 委員の勤務校でのチームティーチングの状況を共有しました。その後、より多くの教育現場の実態を把握するために、県内の中学校、高等学校に勤務する ALT を対象にアンケート調査を実施しました。アンケートは、Google フォームを用いて作成し、質問項目は選択式と記述式のを組み合わせました。

質問項目例は以下のようなものです。

- What are things that you have done in the classroom?  
(どのような授業をこれまでしてきたか。)
- What are things that you want to do in the classroom?  
(どのような授業をしたいと考えているか。)
- Tell us about a time you had a successful lesson/class and please share details about it or materials you used.  
(これまでの満足度が高かった TT クラスはどのようなものだったか。)
- To achieve ideal team-teaching classes, what would you like the JTEs in Fukui to know?  
(理想の TT クラスのために、福井の JTE が知っておくことは。)

アンケート結果の詳細については、合本で改めて報告しますが、「授業前後のコミュニケーション」「単元や授業のゴールの共有化」などがより良いチームティーチングには必要な要素だと考えられます。今後は、アンケート結果から見えてきたものを踏まえて、ALT との実践を行い、その結果も含めて報告したいと考えています。

また、今年度の Bridging については、昨年度と同様に発刊する予定です。Bridging がより良いものとなるよう、ご意見等ありましたら、どんなことでも委員もしくは委員長あてにご連絡いただけると幸いです。

最後に、TEFL 委員会は嶺南を中心に活動しています。中高の教員が協働的に研究に取り組み、毎回会議ではとても良い刺激を得ることができています。自らの日々の教育実践に TEFL 委員会活動の内容をフィードバックするとともに、合本を通して福井県の英語の先生方に少しでも有益な研究内容を報告できればと考えています。

### 〈2023年度 TEFL 委員会 委員 (50音順)〉

澤田 朋美 (栗野中学校)	三仙 真也 (藤島高校)	本田 涼哉 (若狭高校)
松居 貴昭 (大野高校)	宮内 望 (松陵中学校)	百田 忠嗣 (三方中学校)
山本 由貴 (敦賀高校)		

## ◆英語ディベート委員会

委員長 三 仙 真 也 (藤島高校)

英語ディベート委員会は第13回全国高校生英語ディベート大会 in Fukuiにおける運営委員会を母体とし2019年にスタートした。全県的なディベートの指導体制の確立および指導法のノウハウの蓄積のため、また全国高校生英語ディベート大会の開催で生まれた英語ディベート指導の流れと教員のネットワーク、システムを継続・発展させることを目的として活動している。新学習指導要領で加わった「論理・表現」ではどの学校も試行錯誤が続いていると聞くと、特に「論理・表現II」では豊かな表現力はもとより、論理的思考力育成のために英語科教員の苦労が続いている。以前にも増して英語による論理的な思考や表現の指導が求められているが、加えて「ディベート・ディスカッション」を教科科目として設定していたり、そうでなくても「英語コミュニケーション」や「論理・表現」の授業のなかで、活動の一環にディベートを採り入れている教員は多いだろう。私たちの活動を通して先生方や生徒がディベートに慣れ親しみ、授業でも積極的に活用していただければと考えている。

本年度も研修会は全てオンラインで行ったが、全国大会が対面で行われることに準じ、県大会は対面で実施することとした。学期制の違いなど、スケジュール上の理由から研修に参加できない高校があるなど若干のトラブルはあったものの、各高校のネット環境が改善したこと、生徒や教員が経験を重ねつつあることもあり、各研修会をなんとか実施することができた。また大会では各高校の運営協力者や引率担当、県教委の先生方のご尽力はもちろんのこと、本年度は新たに県外のジャッジにはオンラインでジャッジをお願いする「ハイブリッド」開催を行うことで、これまでの知見を生かした大会運営を行うことができた。

### <令和5年度の主な活動>

- |           |  |
|-----------|--|
| 5～7月      | YouTube 視聴を通して、ディベート概論と各役割に関わる研修               |
| 7月23日(日)  | 第1回オンライン研修会【パーラ】練習試合                           |
| 8月4日(金)   | 第2回オンライン研修会【アカデ】練習試合                           |
| 9月9日(土)   | メイクフレンズカップ ジャッジミーティング                          |
| 9月18日(祝)  | 第5回メイクフレンズカップ in Fukui 運営                      |
| 10月1日(日)  | 第2回オンライン研修会【パーラ】練習試合【アカデ】練習試合                  |
| 10月26日(木) | 引率者・運営協力者会議                                    |
| 11月3日(祝)  | 第16回福井県高校生英語ディベート大会(準備型)                       |
| 11月12日(日) | 第7回福井県高校生即興型英語ディベート大会                          |
| 12月16日(土) | 第18回全国高校生英語ディベート大会 in 栃木(帯同ジャッジ1名参加)<br>(～17日) |
| 12月23日(土) | 第9回PDA全国高校生即興型英語ディベート全国大会(～24日)                |

<英語ディベート参加高校と結果> ( )内は出場チーム数

<p><b>【Make Friends Cup in Fukui】</b></p> <p>[参加校] 藤島 (3) 高志 (1) 仁愛 (1) 武生東 (1) 高山西 (1) 富山国際 (2) 富山中部 (2) 岐阜聖徳 (1) 米原 (1) 守山 (1) 三重川越 (1)</p> <p>藤島の1チームはサプリメントチームとして参加</p> <p>[団体成績] 1位 <u>藤島A</u> 2位 富山国際A 3位 藤島C (下線の学校は全国大会出場権獲得)</p> <p>[個人成績] 1位 島 一織 (藤島A)</p> <p>2位 伊藤 加恋 (藤島C)</p> <p>3位 柴田 和慶 (藤島A) 奥村 一輝 (藤島A) 武田 奈々 (高志)</p> <p>堀尾 亮介 (高山西) 河合 美春フランチス (富山国際A)</p>
<p><b>【準備型】</b></p> <p>[参加校] 藤島 (5) 高志 (3) 大野 (1) 勝山 (1) 武生 (2) 武生東 (3)</p> <p>敦賀 (2) 若狭 (1) 福井商業 (2) 仁愛 (2)</p> <p>藤島の1チームはサプリメントチームとして参加</p> <p>[団体成績] 1位 藤島A 2位 <u>高志B</u> 3位 藤島B 4位 藤島C 5位 高志A 6位 敦賀A</p> <p>(下線の学校は新たに全国大会出場権獲得)</p> <p>[個人成績] 1位 庄司 吉宏 (藤島B)・マツキユウ 李安武 (高志B)</p> <p>3位 増永 優志 (福商B)・サスロバミレナ (仁愛A)</p>
<p><b>【即興型】</b> Sapphire部門：経験者対象 Diamond部門：初心者対象</p> <p>Sapphire部門参加 藤島 (11) 高志 (4) 金津 (3) 武生 (2) 若狭 (1) 武生東 (3)</p> <p>敦賀 (1) 北陸 (1) 仁愛 (2)</p> <p>Diamond部門参加 藤島 (2) 福井商業 (1) 金津 (2) 羽水 (2) 大野 (2) 鯖江 (2)</p> <p>武生 (1) 敦賀 (2) 若狭 (1) 武生東 (1) 福井 (6) 仁愛 (2)</p> <p>[団体成績] Sapphire部門 1位 藤島A 2位 藤島F 3位 藤島C・藤島I</p> <p>[個人成績] 1位 島 一織 (藤島A)・本田 俊矢 (藤島A)・安野 顕生 (藤島F)</p> <p>4位 サスロバミレナ (仁愛A)</p> <p>[団体成績] Diamond部門 1位 藤島M 2位 藤島L 3位 金津D・工大福井A</p> <p>[個人成績] 1位 真田 薫子 (藤島M) 2位 新谷 桃花 (工大福井A)・宮崎 玲夏 (藤島L)</p> <p>4位 北岡 瀧 (羽水B)</p>

<令和5年度 英語ディベート委員>

三 仙 真 也	藤島高等学校
松 居 貴 昭	大野高等学校
木 下 弥	奥越明成高等学校
笹 木 英 俊	金津高等学校
西 川 智 康	高志高等学校
松 山 公 香	大野高等学校